

一父ノ服忌満タサル内ニ母ノ服忌カ、ルキハ母死去ノ日ヨリ定式ノ忌服ヲ受クヘシ

一重キ服忌ノ内輕キ服忌カ、ルキハ重キ服忌ノ内ニテ償フヘシ  
一遠方ヨリ知ラセ來レハ父母ハ聞キタル日ヨリ定式ノ忌服受ク  
其余ハ残り日數ヲ受クヘシ

○葬儀

(布告) 五年六月廿八日

第百九十二號

近來自葬執行候者モ有之哉ニ相聞候處

向後不相成候葬儀ハ神官僧侶ノ内ニ可相頼候事

(布告) 七年一月廿九日

第十三號

葬儀ハ神官僧侶ノ内ニ可相頼旨壬申六月

月第九十二號ヲ以テ布告候處自今教導職ノ輩ヘハ信仰ニ寄葬儀相頼候儀不苦候條此旨布告候事

(布告) 八年五月廿三日

第八十九號

明治六年七月第二百五十三號火葬禁止ノ

布告ハ自今廢シ候條此旨布告候事

○常備兵役ヲ竟ヘサル前ノ分家

(布告) 十一年八月三日

第貳拾號

常備兵役ヲ竟ヘサル前分家致シ候儀不相成尤徴兵令第三章免役概則第三條第四條第五條ニ掲クル者徴兵年齡ニ至リ同章第一條第二條ニ照シ免役セラレタル者第五章第十一條但書ニ依リ除セラレタル者及ヒ徴兵年齡ニ至ラスト雖モ第六章第十五條ニ照シ代人料金上納致ス者ハ分家不苦此旨布告候事

(陸軍省達) 十一年十二月十七日

甲第貳拾六號

府 縣

本年第拾七號公布ニ付テハ徴兵恩給令其他當省諸例規中従前區戸長ニ於テ取扱候條件ハ向後郡區長及ヒ戸長ニ於テ取扱候儀ト可相心得此旨相達候事

第二卷 令

第七章 教育令

○明治十三年十二月廿八日第五拾九號布告

- 第一條 全國ノ教育事務ハ文部卿之ヲ統攝ス故ニ庶學幼穉園書  
籍館ハ公立私立ノ別ナク皆文部卿ノ監督内ニアルヘシ
- 第二條 學校ハ小學校中學校大學校師範學校專門學校農學校商  
業學校職工學校其他各種ノ學校トス
- 第三條 小學校ハ普通ノ教育ヲ兒童ニ授クル所ニシテ其學科ヲ  
修身讀書習字算術地理歴史等ノ初步トス土地ノ情況ニ隨ヒテ  
郵書唱歌体操等ヲ加ヘ又物理生理博物等ノ大意ヲ加フ殊ニ女  
子ノ爲メニ裁縫等ノ科ヲ設クヘシ
- 但已ムヲ得サル場合ニ於テハ修身讀書習字算術地理歴史ノ  
中地理歴史ヲ減スルヲ得

第四條 中學校ハ高等ナル普通學科ヲ授クル所トス

第五條 大學校ハ法學理學醫學文學等ノ專門諸科ヲ授クル所ト  
ス

第六條 師範學校ハ教員ヲ養成スル所トス

第七條 專門學校ハ專門一科ノ學術ヲ授クル所トス

第八條 農學校ハ農耕ノ學業ヲ授クル所トス商業學校ハ商賣ノ  
學業ヲ授クル所トス職工學校ハ百工ノ職藝ヲ授クル所トス  
以上數條掲クル所何ノ學校ヲ論セス各人皆之ヲ設置スルヲ  
得ヘシ

第九條 各町村ハ府知事縣令ノ指示ニ從ヒ獨立或ハ聯合シテ其  
學齡兒童ヲ教育スルニ足ルヘキ一箇若クハ數箇ノ小學校ヲ設  
置スヘシ

但シ本文小學校ニ代ルヘキ私立小學校アリテ府知事縣令ノ

認可ヲ經タルキハ別ニ設置セサルモ妨ナシ

第十條 各町村ハ學務ヲ幹理セシメンガ爲メニ小學校ヲ設置スル獨立或ハ聯合ノ區域ニ學務委員ヲ置キ戶長ヲ以テ其員ニ加フヘシ

▲明治十四年六月廿八日第三拾五號布告ヲ以テ本條但書中給料ノ下ハ旅費云々ノ九字ヲ追加ス

但人員ノ多寡給料旅費職務取扱諸費等ノ有無及其額ハ區町村會之ヲ評決シ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第十一條 學務委員ハ町村人民其定員ノ二倍若クハ三倍ヲ薦舉シ府知事縣令其中ニ就テ之ヲ撰任スヘシ

但シ薦舉ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第十二條 學務委員ハ府知事縣令ノ監督ニ屬シ兒童ノ就學學校

ノ設置保護等ノ事ヲ掌ルヘシ

第十三條 凡兒童六年ヨリ十四年ニ至ル八ケ年ヲ以テ學齡トス

第十四條 學齡兒童ヲ就學セシムルハ父母後見人等ノ責任タルヘシ

第十五條 父母後見人等ハ其學齡兒童ノ小學科三ケ年ノ課程ヲ卒ラサル間已ムヲ得サル事故アラサレハ少クモ毎年十六周日以上就學セシメサルヘカラス又小學科三ケ年ノ課程ヲ卒リタル後ト雖モ相當ノ現由アルニアラサレハ毎年就學セシメサルヘカラス

但シ就學督責ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第十六條 小學校ノ學期ハ三ケ年以上八ケ年以下タルヘシ授業日數ハ毎年三十二周日以上タルヘシ

但シ授業時間ハ一日三時ヨリ少カラス六時ヨリ多カラサルモノトス

第十七條

學齡兒童ヲ學校ニ入レス又巡回授業ニ依ラスシテ別

ニ普通教育ヲ授ケントスルモノハ郡區長ノ認可ヲ經ヘシ

但郡區長ハ兒童ノ卒業ヲ其町村ノ小學校ニ於テ試験セシムヘシ

第十八條

小學校ヲ設置スルノ資力ニ乏シシテ巡回授業ノ方

法ヲ設ケ普通教育ヲ兒童ニ授ケントスル町村ハ府知事縣令ノ

認可ヲ經ヘシ

第十九條

學校ニ公立私立ノ別アリ地方稅若クハ町村ノ公費ヲ

以テ設置セルモノヲ公立學校トシ一人若クハ數人ノ私費ヲ以

テ設置スルモノヲ私立學校トス

第二十條

公立學校幼稚園書籍館等ノ設置廢止其府縣立ニ係ル

モノハ文部卿ノ認可ヲ經可ク其町村立ニ係ルモノハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第二十一條

幼稚園書籍館等ノ設置ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘ

ク其廢止ハ府知事縣令ニ開申スヘシ

但シ公立小學校ニ代用スル私立小學校ノ廢止ハ府知事縣令

ノ認可ヲ經ヘシ

第二十二條

町村立私立學校幼稚園書籍館等設置廢止ノ規則ハ

府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第二十三條

小學校ノ教則ハ文部卿頒布スル所ノ綱領ニ基キ府

知事縣令土地ノ情況ヲ量リテ之ヲ編制シ文部卿ノ認可ヲ經テ

管内ニ施行スヘシ

但府知事縣令施行スル所ノ教則ニ準據シ難キ場合アリテ之

ヲ斟酌増減セントシ府知事縣令之ヲ許可セントスルキハ其

意見ヲ付シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第二十四條 公立學校ノ費用府縣會ノ議定ニ係レルモノハ地方  
稅ヨリ支辨シ町村人民ノ協議ニ係レルモノハ町村費ヨリ支辨  
スヘシ

第二十五條 町村費ヲ以テ設置保護スル學校ニ於テ補助ヲ地方  
稅ニ要スルキハ府縣會ノ議定ヲ經テ之ヲ施行スルヲ得ヘシ

第二十六條 公立學校ノ敷地ハ免稅タルヘシ

第二十七條 凡ソ學事ニ供スル寄附金等ハ其寄附人ヨリ指定セ  
シ用途ノ外ニ支消スルヲ得ス

第二十八條 削除

第二十九條 削除

第三十條 削除

第三十一條 削除

第三十二條 削除

第三十三條 各府縣ハ小學校教員ヲ養生センカ爲ニ師範學校ヲ  
設置スヘシ

第三十四條 公立師範學校ニ於テハ本校卒業ノ生徒ニ試験ノ後  
卒業證書ヲ與フヘシ

第三十五條 公立師範學校ハ本校ニ入學セサルモノト雖モ卒業  
證書ヲ請フ者アラハ其學業ヲ試験シ合格ノモノニハ卒業證書  
ヲ與フヘシ

第三十六條 削除

第三十七條 教員ハ男女ノ別ナク年齢十八年以上タルヘシ  
但シ品行不正ナルモノハ教員タルヲ得ス

第三十八條 小學校教員ハ官立公立師範學校ノ卒業證書ヲ有ス  
ルモノトス

但シ本文師範學校ノ卒業證書ヲ有セスト雖モ府知事縣令ヨリ教員免許狀ヲ得タルモノハ其縣ニ於テ教員タルモ妨ケナシ

第三十九條 文部卿ハ時々吏員ヲ府縣ニ發遣シ學事ノ實況ヲ巡視セシムヘシ

第四十條 公私學校ニ於テハ文部卿ヨリ發遣セル吏員ノ巡視ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十一條 府知事縣令ハ管内學事ノ實狀ヲ記載シテ毎年文部卿ニ申報スヘシ

第四十二條 凡ソ學校ニ於テハ男女教場ヲ同クスルコトヲ得ス但シ小學校ニ於テハ男女教場ヲ同クスルモ妨ケナシ

第四十三條 凡學校ニ於テ授業料ヲ收ムルト收メサルトハ其便宜ニ任スヘシ

第四十四條 凡兒童ハ種痘或ハ天然痘ヲ歴タルモノニアラサレハ入學スルコトヲ得ス

第四十五條 傳染病ニ罹ルモノハ學校ニ出入スルコトヲ得ス

第四十六條 凡學校ニ於テハ生徒ニ体罰(毆キ或ハ縛スル類)ヲ加フヘカラス

第四十七條 生徒試験ノキハ父母或ハ後見人等其學校ニ來觀スルコトヲ得ヘシ

第四十八條 町村立學校ノ教員ハ學務委員ノ申請ニ因リ府知事縣令之ヲ任免スヘシ

第四十九條 明治十四年六月廿八日第三拾五號布告ヲ以テ本條中俸額ノ下旅費ノ二字ヲ追加ス

町村立小學校教員ノ俸額旅費ハ府知事縣令之ヲ規定シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第五十條 各府縣ハ土地ノ實況ニ隨ヒ中學校ヲ設置シ又專門學校農學校商業學校職工學校等ヲ設置スヘシ

第八章 徵兵令

○明治十六年十二月二十八日第四十六號布告

第一章 總則

第一條 全國ノ男子年齡滿十七歲ヨリ滿四十歲迄ノ者ハ總テ兵役ニ服ス可キモノトス

第二條 兵役ハ陸軍海軍共ニ常備兵役後備兵役及ヒ國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ別チテ現役及ヒ豫備役トス其現役ハ三箇年ニシテ年齡滿二十歲ニ至リタル者之ニ服シ其豫備役ハ四箇年

コシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 國民兵役ハ年齡滿十七歲ヨリ滿四十歲迄ノ者ニシテ常備兵役及ヒ後備兵役中ニ在ラサル者之ニ服ス

第六條 各兵役ノ期限已ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サズ

第二章 服役

第八條 陸軍現役兵ハ每年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵及ヒ雜卒職工ニ區別シ抽籤

ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

陸軍現役兵ハ海軍所要ノ人員ニ應シ沿海地方及ヒ島嶼ノ人民  
ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工等ニ區別シ抽  
籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則  
ニ依リ就役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス

第九條 陸軍雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコト  
アル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十條 年齢二十歳ニ滿タスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ現役ヲ  
志願スルコトヲ得

第十一條 年齢滿十七歳以上滿二十七歳以下ニシテ官立府縣立  
學校(小學校ヲ除ク)ノ卒業證書ヲ所持シ服役中食料被服等ノ  
費用ヲ自辨スル者ハ願ニ因リ一個年間陸軍現役ニ服セシム  
其技藝ニ熟達スル者ハ若干月ニシテ歸休ヲ命スルコトアル可

シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十二條 現役中殊ニ技藝ニ熟シ行狀方正ナル者及ヒ官立公立  
學校(小學校ヲ除ク)ノ步兵操練科卒業證書ヲ所持スル者ハ其  
期未タ終ラスト雖モ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十三條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集シ常備隊ヲ  
充實シ又補充隊ニ編制ス平常ニ在テハ技藝復習ノ爲メ毎年一  
度六十日以内之ヲ召集シ又兵員實查ノ爲メ毎一年一度點呼ヲ爲  
ス但海軍豫備兵ハ技藝復習ノ爲メ召集スルコトナシ

第十四條 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召  
集シ常備兵ノ後援ト爲ス平常ニ在テ其技藝復習ノ爲メニ召集  
シ及ヒ兵員實查ノ爲ニ點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第十五條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ  
兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集シ隊伍ニ編制シテ軍役ニ充



第三章 免除及ヒ猶豫

第十六條 兵役ヲ免除スルハ癡疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第十七條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ猶豫ス但其年補充員不足スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ之ヲ徵集ス

第一項 兄弟同時ニ徵集ニ應スル者ノ内一人及ヒ現役兵ノ兄或ハ弟一人

第二項 現役中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ兄或ハ弟一人

第三項 戸主年齢滿六十歳以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項 戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項 戸主

第十八條 左ニ掲クル者ハ其事故ノ存スル間徵集ヲ猶豫ス

第一項 教正ノ職ニ在ル者

第二項 官立府縣立學校(小學校ヲ除ク)ノ卒業證書ヲ所持スル者ニシテ官立公立學校教員タル者

第三項 官立大學校及ヒ之ニ準スル官立學校本科生徒

第四項 陸海軍生徒海軍工夫

第五項 身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第六項 疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ未タ勞役ニ堪ヘサル者

第七項 學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者

第八項 禁錮以上ニ該ル可キ刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

第九項 公權停止中ノ者

第十九條 官立府縣立學校(小學校ヲ除ク)ニ於テ修業一個年以  
上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ六個年以内徵集ヲ猶豫ス

第二十條 左ニ掲ケル者ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトヲ問  
ハス復習點呼ノ爲メ召集スルコトナシ但戰時若クハ事變ニ際  
シテハ太政官ノ決裁ヲ經テ召集スルコトアル可シ

第一項 官吏(判任以上)及ヒ兵長

第二項 教導職(試補ヲ除ク)

第三項 官立公立學校教員

第四項 府縣會議員

第五項 官立府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ所持シテ醫術開業  
ノ者

第二十一條 官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可カラサル技

術ノ職ヲ奉スル者ハ太政官ノ決裁ニ依テ徵集ヲ猶豫スルコト  
アル可シ

第二十二條 左ニ掲ケル者ハ第十七條ニ照シテ徵集ヲ猶豫スル  
ノ限ニ在ラス

第一項 附籍戶主及ヒ附籍戶主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第二項 癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハ  
サルニ非ス又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ嗣子  
承祖ノ孫若クハ相續人ヲ罷メ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

第三項 年齡六十歲未滿ノ戶主癡疾又ハ不具等ニシテ一家  
ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラ  
レタルニ非スシテ戶主ヲ罷メ年齡六十歲以上ノ者ニシテ  
其跡ヲ繼キタル戶主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項 分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戶主及ヒ

其戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項 嗣子承祖ノ孫失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

第六項 第二項第三項第四項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主

第七項 年齢六十歳未滿ノ者癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主

第八項 嗣子承祖ノ孫又ハ相續人癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ノ死亡跡若クハ戸主ヲ罷メタル

跡ヲ繼ガス他ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主

第九項 戸主失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ヲ繼キタル戸主

第二十三條 第十八條第一項第二項第三項第四項（陸海軍生徒ヲ除ク）第十九條第二十一條ニ當ル者ト雖モ第三十五條ニ示シタル徵兵各自届出期限即チ九月十六日以後ニ係ル者ハ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス

第四章 徵兵區及ヒ抽籤

第二十四條 徵兵區ハ軍管師管及ヒ府縣ノ區域ニ從フ其軍管ニ從フモノヲ軍管徵兵區ト爲シ師管ニ從フモノヲ師管徵兵區ト爲シ府縣ニ從フモノヲ府縣徵兵區ト爲ス但府縣ノ管地兩師管ニ分属スルモノハ師管毎ニ一區ヲ設ク  
軍管及ヒ師管ノ徵兵區域ハ別表ニ掲ク

第二十五條 各鎮臺ニ屬スル歩兵ハ其師管徵兵區限り其他ノ諸兵ハ其軍管徵兵區限り之ヲ徵集ス但現役徵員及ヒ其補充員不足スルトキ歩兵ハ他ノ師管其他ノ諸兵ハ他ノ軍管徵兵區ヨリ之ヲ補フ

海軍及ヒ近衛ノ諸兵ハ各軍管徵兵區ニ配當シテ全國ヨリ之ヲ徵集ス

第二十六條 抽籤ハ各府縣徵兵區限り之ヲ行フモノトス

府縣徵兵區ニ於テハ其區壯丁ノ身體検査終リタル後兵役ニ適ス可キ人員ノ身材職業ニ從ヒ兵種ヲ區別シ番號ヲ定メ抽籤セシム

第二十七條 籤ハ一郡區毎ニ籤丁ノ人撰ヲ以テ壹名乃至三名ノ總代人出シテ之ヲ抽カシム

第二十八條 抽籤ノ法ハ籤丁ノ數ニ應シ籤札ニ兵種番號ヲ記シ

籤箱ニ納レ籤簿掛ノ面前ニ置キ籤丁名簿ノ順序ニ從ヒ其氏名ヲ呼ヒ總代人ニ之ヲ抽カシメ籤簿掛ハ抽籤ノ正否ヲ監シ抽キ舉クル所ノ番號ヲ高聲ニ呼ハシメ其籤札ヲ受取リ籤簿ニ氏名番號ヲ記シ籤札ハ總代人ニ交付ス

第二十九條 籤ハ其番號現役徵員ノ數ニ滿ツル迄ヲ以テ現役籤トシ其餘ヲ以テ補充籤トス

第五章 補充員及ヒ豫備徵員

第三十條 補充員ハ補充籤ヲ抽キタル者ヲ以テ一個年間之ニ充ツ其期限内現役兵欠員スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ其番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集ス

補充員ノ數ハ概テ現役徵員五分ノ二ヨリ少カラサルモノトス  
第三十一條 補充員ニシテ其期限内徵集ノ命ナキ者及ヒ第十八條第三項ノ生徒ニシテ二個年以上ノ課程ヲ卒リタル者ハ年齢

滿二十七歲迄之ヲ第一豫備徵員トス

第三十二條 第十七條ニ當ル者ニシテ其年徵集ノ命ナキ者第十八條第二十一條ニ當ル者ニシテ七個年間及事故ノ存スル者及ヒ第一豫備徵員ヲ終リタル者年齢滿三十二歲迄ハ之ヲ第二豫備徵員トス但第十七條ニ當ル者第二豫備徵員ト爲リタル後六個年間ニ該條ニ掲クル資格ヲ失ヒタルトキハ現役ニ徵集ス

第六章 雜則

第三十四條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齢滿十七歲ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戸主(本人戸主ナレハ自身以下戸主トアルモノ皆同シ)ヨリ本人ノ氏名族籍住所誕生

ノ年月日及ヒ職業ヲ記載シ本籍ノ戸長ニ届出可シ

第三十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齢滿二十歲ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ書面ヲ以テ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ若シ届出ノ後翌年四月十日迄ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ但二十歲未滿ニシテ現ニ服役スル者ハ届出ルニ及ハス

第三十六條 第十七條ニ當ル者其資格ヲ失ヒ第十八條第十九條第二十一條ニ當ル者其事故止ニ及ヒ第三十二條但書ニ當ル異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ但九月十六日以後翌年四月十日以前本條ニ當ル者ハ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ

第三十七條 他ノ府縣ニ寄留スル者其地ニ於テ徵集ニ應セント

欲スルトキハ其地ニ居住スル者(戶主)ヲ以テ証人ト爲シ八月十五日迄ニ戶主ヨリ其旨ヲ本管廳ニ願出可シ但第三十五條ノ屆書ハ寄留地ノ戶長ニ差出ス可シ

第三十八條 現役兵在營在艦中ハ定額ノ日給ヲ與ヘ服食等ヲ給ス

第三十九條 疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ其事由ヲ詳記シ其疾病ニ罹ル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添即日戶長ニ届出可シ其事故止ムトキ亦同シ

第四十條 第三十九條ニ掲クル者其年九月一日ニ至ルモ事故猶止マサルトキハ之ヲ翌年廻シノ者ト爲シ翌年更ニ検査ヲ遂ケ他ノ徵集ニ先チ徵集ス可シ但戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ翌年徵集ノ期ヲ待タズ徵集ス

第四十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其

他詐偽ノ所爲ヲ行ヒ又ハ逃亡若クハ潛匿シタル者又ハ正當ノ故ナク検査所ニ參會セス又ハ第三十五條第三十六條ノ届出ヲ怠リタル者ハ抽籤ノ法ヲ用ヒス直ニ現役ニ徵集シ又ハ翌年検査ヲ遂ケ第四十條ニ掲クル者ニ先チ抽籤ノ法ヲ用ヒス徵集ス

第四十二條 常備現役年期ノ計算ハ總テ其入營年ノ四月二十日(第四十一條ニ掲クル者ハ入營ノ當日)ヨリ起算シ豫備役及ヒ後備役年期ノ計算ハ其定例編入ス可キ年ノ四月二十日ヨリ起算ス但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ附セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中ノ日數及ヒ逃亡中ノ度數ハ服役年期ニ算入セス

第四十三條 第三十四條第三十五條第三十六條第三十九條ノ届出ヲ爲サ、ル者及ヒ検査時日ノ指定ヲ受ケ正當ノ故ナク其場所ニ參會セサル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身體

ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
 第四十五條 本令施行ノ爲メニ要スル規則ハ別ニ布達ヲ以テ之ヲ定ム

管軍	管師	國	名
第	第	第	第
		武藏ノ内	武藏ノ内
		芝 町區	麴 町區
		麻布區	神田區
		赤阪區	日本橋區
		四谷區	京橋區
		淺草區	下谷區
		南足立郡	北豐島郡
		北多摩郡	南多摩郡
		入間郡	秩父郡
		兒玉郡	新坐郡
		榛澤郡	都 筑郡
			西多摩郡
			東多摩郡
			橘樹郡
			比企郡
			賀美郡
			高麗郡
			那珂郡
			北足立郡
			久良岐郡
			横濱區
			牛込區
			横濱區
			荏原郡
			小石川區
			本郷區
			南豐島郡
			北豐島郡
			南葛飾郡
			深川區
			南葛飾郡
			北葛飾郡
			武藏ノ内
			本所區
			北葛飾郡
			南葛飾郡
			北葛飾郡
			上總下總常陸下野

第	第	第	第
一	二	三	四
男衾郡	小縣郡	陸前ノ内	陸前ノ内
相摸甲斐伊豆上野信濃ノ内	更級郡	仙臺區	宮城郡
南佐久郡	上水内郡	名取郡	遠田郡
北佐久郡	下高井郡	磐城	加美郡
		岩代	栗原郡
		羽前	登米郡
			志田郡
			桃生郡
			氣仙郡
			陸中
			陸奥
			羽後
			鹿鹿郡
			本吉郡
			越後
			佐渡
			柴田郡
			磐城
			岩代
			羽前
			安房
			深川區
			南葛飾郡
			北葛飾郡
			武藏ノ内
			本所區
			北葛飾郡
			南葛飾郡
			北葛飾郡
			上總下總常陸下野

第 一 十 第	第 三 第		第 五 第	第 六 第	第 七 第
	尾張ノ内	尾張ノ内			
肥後 日向 大隅 薩摩 沖繩	阿波 讚岐 伊豫 土佐	安藝 備後 備中 出雲 石見 隱岐 周防 長門	但馬 美作 備前 因幡 伯耆	武庫郡 有馬郡 川邊郡 播磨 淡路 若狹 丹波 丹後	大和 河内 和泉 近江 伊賀
				東春日井郡 西春日井郡 美濃 加賀 能登	東區 西區 南區 紀伊ノ内 和歌山區
				東筑摩郡 西筑摩郡 南安曇郡 北安曇郡	東區 西區 南區 紀伊ノ内 和歌山區
				上伊那郡 下伊那郡 諏訪郡	東區 西區 南區 紀伊ノ内 和歌山區
				三河 遠江 駿河 伊勢 志摩 紀伊ノ内	東區 西區 南區 紀伊ノ内 和歌山區
				南牟婁郡 北牟婁郡	東區 西區 南區 紀伊ノ内 和歌山區
				丹羽郡	東區 西區 南區 紀伊ノ内 和歌山區
				名草郡 海部郡 那賀郡 伊都郡 山城	東區 西區 南區 紀伊ノ内 和歌山區
				有田郡 日高郡 東牟婁郡 西牟婁郡	東區 西區 南區 紀伊ノ内 和歌山區

第 一 十 第	第 三 第		第 四 第	第 五 第	第 六 第
	尾張ノ内	尾張ノ内			
肥後 日向 大隅 薩摩 沖繩	阿波 讚岐 伊豫 土佐	安藝 備後 備中 出雲 石見 隱岐 周防 長門	但馬 美作 備前 因幡 伯耆	武庫郡 有馬郡 川邊郡 播磨 淡路 若狹 丹波 丹後	大和 河内 和泉 近江 伊賀
				東春日井郡 西春日井郡 美濃 加賀 能登	東區 西區 南區 紀伊ノ内 和歌山區
				東筑摩郡 西筑摩郡 南安曇郡 北安曇郡	東區 西區 南區 紀伊ノ内 和歌山區
				上伊那郡 下伊那郡 諏訪郡	東區 西區 南區 紀伊ノ内 和歌山區
				三河 遠江 駿河 伊勢 志摩 紀伊ノ内	東區 西區 南區 紀伊ノ内 和歌山區
				南牟婁郡 北牟婁郡	東區 西區 南區 紀伊ノ内 和歌山區
				丹羽郡	東區 西區 南區 紀伊ノ内 和歌山區
				名草郡 海部郡 那賀郡 伊都郡 山城	東區 西區 南區 紀伊ノ内 和歌山區
				有田郡 日高郡 東牟婁郡 西牟婁郡	東區 西區 南區 紀伊ノ内 和歌山區



第六	豐前 豐後 筑前 筑後 肥前 豊岐 對島
第七	渡島 後志 石狩 天鹽 北見 膽振 日高 十勝 釧路 根室 千島

軍管ハ軍團ノ諸兵師管ハ師團ノ諸兵ヲ徵集ス  
 徵兵ハ現今沖繩縣ニ之ヲ行ハス北海道ニ於テハ第七軍管ノ鎮臺  
 ナ設クル迄函館縣下函館江差福山三個所ヲ限り之ヲ行ヒ第二軍  
 管ノ管轄ニ屬セシム

第一節 全 類別

▲明治十六年十二月廿八日陸軍省甲第四拾四號達府縣  
（沖繩札 嶮根室  
 ノ三縣  
 ナ除ク）

今般第四拾六號布告徵兵令改正相成候處本年徵兵適齡即チ來十  
 七年徵集ス可キモノハ既ニ舊徵兵令ニ據リ調査シ最早諸名簿整  
 頓後ニ係ルヲ以テ十七年徵集ス可キ者ハ舊令ニ據リ徵集致シ新  
 令第十一條第十七條乃至第十九條第二十一條第二十二條第二十  
 五條第二項第三十一條中ノ生徒第三十六條ニ當ル事項ハ來十七  
 年適齡即チ十八年徵集ス可キ者ヨリ實施致候儀ト可心得此旨相  
 達候事

▲明治十七年一月十一日陸軍省甲第壹號達府縣  
（沖繩札 嶮根室  
 ノ三縣ヲ除ク）  
 左之通各鎮臺ニ相達候條爲心得此旨相達候事

各 鎮 臺

昨十六年十二月第四十六號布告ヲ以テ徵兵令改正相成候ニ付テ  
 ハ本年徵兵使巡行ノ儀三月十五日ヨリ始メ六月十日ヲ以テ復命  
 可致此旨相達候事

▲明治十七年一月十一日陸軍省甲第二號達府縣（沖繩札根根室ノ三縣ヲ除ク）  
 昨十六年十二月第四十六號布告ヲ以テ徵兵區域改正相成依ラ本年  
 ヲリ新區域ニ據リ徵集可致儀ニ付右改正ニ係ル府縣ニシテ已ニ  
 舊區域ニ據リ徵兵諸名簿調製ノ上舊所管鎮臺へ送達濟ノ分ハ其  
 鎮臺ニ於テ之ヲ分割シ新所管鎮臺へ送附シ若シ未タ送達セサル  
 府縣ニ在テハ其府縣ニ於テ之ヲ分割シ直ニ新所管鎮臺へ送達可  
 致此旨相達候事

▲明治十七年二月六日陸軍省甲第九號達府縣（沖繩根室札根ノ三縣ヲ除ク）  
 先般徵兵令改正相成候得共本年徵集スヘキ者ハ昨十六年當省甲  
 第四十九號達ノ通舊徵兵令ニ據リ徵集可致儀ニ付徵兵官員及官  
 署ノ稱呼其他事務手續ノ儀ハ改正徵兵令中ニ實施スヘキ條件  
 ニ矛盾スルモノヲ除クノ外舊徵兵事務條例ニ據リ施行可致此旨  
 相達候事

▲明治十七年一月廿一日大坂府ヨリ陸軍省へ伺同一月二十四日  
 指令

今般徵兵令改正ニ附猶豫徵集ノ區分ハ發令ノ日ヲ以テ分界トシ  
 譬ハ新舊令ヲ對照シ舊令ニテ免役ニ相當スル戶主新令ニテ徵  
 集部分ニ入ルモ廿八日以前ニ係ル者ハ新令第十七條第五項ニ依  
 リ猶豫ニ屬スヘキハ無論ト存候得共爲念相伺候ニ付至急電報ニ  
 テ御指令アリタシ

（指令）去ル廿一日電報徵兵令改正ニ付猶豫徵集ノ區分伺右ハ十  
 七年一月以後滿二十歳トナルモノヨリ新令ヲ適用スルヲ以テ假  
 令舊令ニテ免役ニ相當スル戶主ト雖モ新令ニテ徵集部分ニ入ル  
 者ハ發令ノ前後ヲ論セス徵集スヘキ儀ト心得ヘシ

▲明治十七年一月十一日千葉縣ヨリ陸軍省へ伺同一月十五日指  
 令改正徵兵令第二十二條第七項ハ改正前後ノ區別ナキヤ若シ區

別ナシトセハ十二年十月廿七日以前ニ溯ルヤ

(指令)本月十一日電報改正徵兵令第二十二條第七項ハ改正前後ノ區別ナキヤ云々伺ノ儀十七年一月以後二十歳トナル者ハ總テ新令ニ據リ處分スル義ト心得ヘシ

▲明治十七年一月十四日橡木縣ヨリ陸軍省ヘ伺一月廿二日指令昨十六年太政官第四十六號改正徵兵令御布告相成候處同年御省甲第四十四號ヲ以テ十七年徵集スヘキ者ハ舊令ニ依リ徵集致シ新令第十條其他各條ニ當ル事項ハ十八年徵集ス可キ者ハ舊令ニ依リ徵集致シ新令第十條其他各條ニ當ル事項ハ十八年徵集スヘキモノヨリ實施致候儀云々御達相成候ニ付テハ本年即チ十七年徵兵適齡者除役免役及猶豫等ハ勿論諸名簿整頓後檢査時間中ニ係ル徵員身上異同ノ處分並ニ免役料上納願等ニ至ル迄總テ舊令ニ據リ取扱候儀ト相心得可然哉

(指令)伺ノ通

第九章 徵兵令注意

今度改正ノ徵兵令ハ舊令ニ比シテ頗ル免除ノ區域ヲ狭少ニシ舊令ニ依ルトキハ終身兵役ヲ免セラル、者アリ(舊第廿七條)國民軍ノ外兵役ヲ免セラル、者アリ(舊第廿八條)平時免役ヲ得ルモノアリ(舊第廿九條)然ルニ新例ニ依レハ免役料ノ制ヲ廢シ勅奏列任ノ官吏ヲ問ハス華士族平民ノ貴賤ヲ論セス皆徵集ニ應セシメ上下貧富ノ間ニ毫末モ美等ヲ立テラレズ只兵役免除ヲ得ルモノハ癩疾又ハ不具等ニシテ兵役ニ堪ヘサルモノニ限り其他ハ何人タリトモ一切免ル、ヲ得サルノ正則トハナレリ尤モ舊令ニ於テ免役區内ニ在リシ者ノ中ニテ新令ヲ以テ猶豫區内ニ置カレタルモノアレトモ這ハ全ク平時ニ限リテ戰時ニハ何人タリトモ免ルヲ得サルナリ此ノ如クナルトキハ今回ノ改正ノ稍嚴密ニ涉ル

徵兵令注意

ヲ識スルモノモアラソナレトモ能ク考へ徐ニ思へハ全國皆兵タル徵兵ノ制度ニ於テ固ヨリ然ラサルヲ得サルナリ已ニ今日ノ制度ニテ癡疾又ハ不具者ノ兵役ニ堪へサルモノ、ミ死役トナリシウヘハ此外ノモノニテ徵集ニ漏ル、時ハ則チ癡疾不具者ノ部分ニ屬シ一人前ノ男子タルヲ得サルモノナレハ誠ニ此上モナキ恥辱タルベク徵集ニ應シ得ラル、ナ以テ一身ノ榮譽幸福トモ思フベキナリ苟クモ此ニ悟ル所アレハ新令ノ嚴密ニ涉ルハ頗ル至當ノ理ヲ得タル緊要ノ改正ト謂フヘキナリ世間此理ヲ解セサル者漫リニ徵兵ノ應募ヲ嫌ヒ宛ガラ鬼國ニ投セラレテ死地ニ就クガ如キノ妄想ヲ抱キ急ニ之ヲ逃避スルノ策ヲ施シ倉皇狼狽スルモノ、多キ誠ニ憫笑スヘシ其中ニハ全ク新令ノ意味ヲ誤解シテ太早計ノ事ヲ爲スアリ或ハ充分ニ之ヲ解得セサルノ條項アリ或ハ肝要ノ項ヲ迂濶ニ見流シ左マテニ之ヲ意トセサルノケ所モアラ

ソ斯クテハ人民各自ノ利害ニ關係スルコトノ甚々抄ナカラサルヘキヲ思ヒ此ニ新令ノ條ヲ逐フテ新舊同令ヲ比較シ間ニ解釋ヲ加ヘテ改正ノ點ヲ明瞭ニシ聊カ世人ノ使用ニ供スル所アラントス世人幸ヒニ熟讀靜慮ノ勞ヲ吝ム勿レ(但條項中別ニ解釋ヲ要セサルモノハ但其條項ノミヲ掲ケテ全文ヲ省ク)

徵兵令第一章 總則

第一條 全國ノ男子年齡滿十七歳ヨリ滿四十迄ノ者ハ總テ兵役ニ服ス可キモノトス

是ハ兵役ニ服スヘキ男子ノ年齡ヲ示シタルモノニシテ常備後備國民軍トモヲ總稱ス此條新舊トモ同シ

第二條 兵役ハ陸軍海軍共ニ常備後備兵役及ヒ國民兵役トス此條ハ兵役ノ區別ヲ示ス但シ舊令ニハ陸軍ノミニテ海軍ナシ海軍ハ是迄其徵集ヲ志願者ノミニ限ラレシカ今度新令ヲ以テ

海軍ニモ徵兵ノ制ヲ用ヒラル、事コナレルナリ

第三條 常備兵役ハ別テ現役及ヒ豫備役トス其現役ハ三箇年ニシテ年齢滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ其豫備役ハ四箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

此條ハ常備兵ノ事ヲ説ク常備兵ノ廿歳ヨリ三ヶ年間服役スルハ新舊共同シ但豫備兵ハ舊令ニテ三年ノ處ヲ新令ニテ四年トシ一年間ヲ増加セリ

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス此條ハ後備兵ノ事ヲ説ク舊令ニハ服役四ヶ年ノ處新令ニテ五ヶ年トナリ是又一年間ヲ増加ス

第五條 第六條

第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス舊令ニハ懲役一年以上及ヒ國事犯禁獄一年以上實決ノ刑ニ處

セラレタル者ハ終身免役ヲ得ルトアリシヲ新令ニテ此條ニ改定セラレ且舊令ニハ終身免役ヲ得ルトアリ新令ニハ兵役ニ服スルコトヲ許サストアリ免役トイヘハ未タ兵役ニ就クノ自由ト榮譽トヲ失ハサル者ナレトモ兵役ニ服スルヲ許サストイヘハ全ク之ヲ褫奪セラレタルノ意ナル昭カナリ蓋シ兵役ハ國民ノ義務トハイヘ其職ハ國家ノ于城ナリ武夫ノ榮職ナリ苟クモ此榮職ノ中ニ加フルニ重罪ノ刑ニ處セラレ終身公權ヲ褫奪セラレタル者ヲ以テスヘカラサルハ言ヲ待タサルナリ

第二章 服役

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應ジ壯丁ノ身材藝術職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵及ヒ雜卒職工ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ海軍現役兵ハ海軍所要ノ人員ニ應ジ沿海地方及ヒ嶼嶼ノ人民ヲ調査シ海軍ニ適スル職

業ニ從ヒ水兵火夫職工等ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ 但シ海軍志願兵徵募規則ニ依リ就役スル者ハ本令ノ限ニアラス

此條ハ現役兵職業ノ區別ヲ說舊令ニテハ輜重輸卒看病卒并ニ職工ハ志願者ヲ募集スルノ正則アリシカ今度之ヲ廢シテ諸兵同様に徵集スルコトニ改正ナリ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ兵種ヲ區別シ抽籤ノ法ヲ以テ當籤者ノ番號順序ニ依リ現役兵又ハ補充員トセラル、ナリ又海軍ハ沿海地方及ヒ嶋嶼ノ人民ヲ調査シ其適スル職業ニ充ラル、モノハ蓋シ山間原野ニ人トナリ目ニ未タ狂波怒濤ヲ見ス常ニ長風ニ乘シテ千里ノ海洋ヲ渡航セサルモノヲ採テ海兵トスルモ必竟實際上ニ不都合ナル所アルカ故ニ殊ニ沿海地方及ヒ嶋嶼ノ人民ヲ以テ之ニ充ラル、ナリ那波嶺第一世曾テ海軍ノ擴張ヲ計畫シテ海兵ニハ必ス沿

海地方及ヒ嶋嶼ノ人民ヲ採テ之ニ充ラレシコトアリ又此意ニ外ナラス

第九條

第十條 年齢二十歳ニ滿タスト雖トモ滿十七歳以上ノ者ハ現役ヲ志願スルコトヲ得

第十一條 年齢滿十七歳以上滿二十七歳以下コシテ官立府縣立學校(小學校ヲ除ク)ノ卒業證書ヲ所持シ服役中食料被服等ノ費用ヲ自辨スル者ハ願ニ因リ一個年間陸軍現役ニ服セシム其技能ニ熟達スル者ハ若干月コシテ歸休ヲ命スルコトアルヘシ 但シ常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

舊令ニハ近衛兵ニ拔擢ノ項(第二條第二項)教導團ニ入ラシムルノ項(第三項)下士ニ任スルノ項(第四項)アレト新令ヲ以テ之ヲ廢セラレ更ニ新令第十條ヲ以テ現役志願ノ項及ヒ第十一

條ヲ以テ官立府縣立學校（小學校ヲ除ク）ノ卒業證書ヲ所持シ  
 云々ノ項ヲ増補セラレタルナリ此條ニ由テ二十七歳未満ノ者  
 ハ一ケ年間服役スレハ適齡マテニ早ク一科ノ技藝ヲ卒業セル  
 ヲケニ當リ且適齡ノ時ニ至リテ吾カ修メントスルトコロノ學  
 術ヲ研究スルノ時期ヲ妨クルコトナキ一舉兩全ノ簡便法トイ  
 フヘシ

第十二條 現役中殊ニ技藝ニ熟シ行狀方正ナル者及官立公立學  
 校（小學校ヲ除ク）ノ步兵操練科卒業證書ヲ所持スル者ハ其期  
 未タ終ラスト雖トモ歸休ヲ命スルコトアルヘシ  
 步兵操練科トイヘルモノハ今度文部省ニ於テ之ヲ各官立公立  
 學校ニ置カル、事トナリ己ニ之ニ着手シタル所モアリ抑モ此  
 科ヲ置カル、ハ志氣ヲ振作シテ軍職ニ就クコトヲ喜ハシメン  
 ニハ幼少ノ時ヨリシテ武事ヲ習ハシムルニ在ルヲ以テナリ

第十三條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シテ之ヲ召集シ常備隊  
 ヲ充實シ又補充隊ニ編制ス平常ニ在テハ技藝復習ノ爲メ毎年  
 一度六十日以内之ヲ召集シ又兵員實査ノ爲メ毎年一度點呼ヲ  
 爲ス 但シ海軍豫備兵ハ技藝復習ノ爲メ召集スルコトナシ  
 此條ハ復習ノ日數ヲ一度六十日以内ト改正セラレタルマテナ  
 リ 但シ技藝復習トハ毎年一度ツ、出テ操練ノ復習ヲナスチ  
 イヒ點呼トハ頭ソロヘチ爲スナイフ

第十四條 第十五條

第三章 免除及ヒ猶豫

第十六條 兵役ヲ免除スルハ癩疾又ハ不具等ニシテ徵兵檢査規  
 則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル  
 舊分第廿八條第一項ヨリ第八項マテニテ兵役ヲ免セラル、モ  
 ノヲ示サレタラント新令ニハ本條ノ外何人ヲ問ハス適齡ノ者ハ

徴集セラル、コト、ナレリ

第十七條 左ニ掲クル者ハ徴集ヲ猶豫ス 但其年補充不足ナルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ之ヲ徴集ス

第一項 兄弟同時ニ徴集ニ應スル者ノ内一人及ヒ現役兵ノ兄或ハ弟一人

此條ハ舊令第三十條第二項第三項ヲ改正セラレタルモノニテ舊令ハ一年限リノ猶豫ナリ兄弟同時ニ適齡ノ者アルトキハ舊令ニハ偶數ハ其半 奇數ハ其寡數(例ヘハ三人ハ一人五人ハ二人)ハ猶豫ヲ得タレトモ新令ハ一人ト限ラレタルナリ

第二項 現役中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ兄或ハ弟一人

此條ハ舊令第廿九條第三項ヲ改正セラレタル者ニテ以前ハ豫備後備服役中公務ニ起因シタル疾病死没モ本令ニ準セラレシカ新令ニテハ常備現役中ノ疾病死没ノミニ限リ其他ハ容赦セラレサル事トナリシナリ

第三項 戸主年齢六十歳以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

此條ハ舊令廿八條第三項第四項ヲ改正セラレタルモノニテ戸主年齢滿五十歳ヲ滿六十歳ト改メラレ舊令ハ五十歳以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ハ國民軍ノ外免役五十歳以下ノ者ノ嗣子承祖ノ孫ハ平時免役又獨子獨孫ハ假令ヒ父五十未滿ヨリトモ國民軍ノ外免役ナリシカ今日ニ至テハ設ヒ戸主タリ獨子タリ獨孫タリトモ父ノ齡六十二滿タサレハ猶豫ヲ得ルコト能ハヌ但シ嗣子タル限リハ實子養子ヲ問ハサルコトナレシ



第四項 戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

此條ハ舊令第廿八條第五項ヲ改正セラレタルモノニテ戸主癡疾不具等ナレハ設ヒ六十歳未満ト雖トモ其嗣子或ハ承祖ノ孫ハ猶豫ヲ得ヘシ又嗣子タル上ハ養子ニテモ可ナルヘシ尤モ癡疾ニアラスト雖トモ重病ニ罹リテ急ニ平癒ノ見込ミナシ生計ヲ營ムコト能ハサル者ノ嗣子承祖ノ孫モ又此項ニ依ツテ猶豫ヲ得ラルヘキカ本文癡疾不具等トアル以上ハ癡疾不具ノミニ限ラサルモノト思ハルヘシ

第五項 戸主

此項ニテ戸主ハ猶豫ヲ得ルノ限ニ在ルモ第廿二條ニ於テ戸主ト雖トモ猶豫ヲ得サル例多シ猶廿二條ヲ參看スヘシサレト欄リ徵兵適齡前ニ於テ六十以上ノ養父若クハ養母アル家

ニ養子トナリ其嗣子若クハ戸主トナリ或ハ女戸主ニ入夫シテ戸主トナリタル者ハ此項ニ照ラシテ猶豫ノ域内ニ入ルヘキモノナルカ徵兵適齡前ニ於テ養子タルコトヲ禁スルトノ法律ナキ以上ハ斯ル場合ニ相當スル養子モ亦猶豫ノ部内ニ屬スヘキカ如シ

第十八條

左ニ掲クル者ハ其事故ノ存スル間徵集ヲ猶豫ス

第一項 教正ノ職ニ在ル者

舊令ニハ官吏判任以上及ヒ教導職試補以上并ニ戸長ハ免役ヲ得ヨリシカ新令ニテハ教導職タリト雖トモ教正ノ職ニ非サレハ猶豫ヲ得ル能ハス又一タヒ教正ノ職ヲ奉セシモノ一朝之ヲ罷メタル、時ハ徵集ニ應セサル可ラス又新令ヲ以テ官吏ニ猶豫ヲ與ヘサレハ上ハ勅任官ヨリ奏判任官及ヒ戸長ニ至ル迄苟クモ適齡ノ者ハ少シモ容赦セラレサルモノタリ

ト知ルヘシ

第二項 官立府縣立學校（小學校ヲ除ク）ノ卒業證書ヲ所持スル者ニシテ官立公立學校教員タル者

舊令第廿八條第八項及ヒ第廿九條第五六七ノ二項ヲ改正セラレタルモノニシテ従前ハ官立公立學校ノ卒業證書サヘ所持スレハ免役ヲ得又卒業證書ナキモ官立公立學校ノ教員トナリサヘスレハ又免ルヲ得タリト雖トモ新令ニテハ官立府縣立學校ノ卒業證書ヲ有スルノミナラス之ニ依テ官立公立學校教員ノ職ヲ奉スル者ノミニ限ラレタリ固ヨリ卒業證書ヲ得タル學校ハ官立府縣立學校ノミニ限ラレ人民公立ノ專門學校及ヒ公立小學校ハ此限外タレトモ其職ヲ奉スル所ノ學校ニ至テハ凡ソ私塾ヲ除クノ外公立官立タレハ小學校ナルモ亦可ナルヘシ

第三項 官立大學校及ヒ之ニ準スル官立學校本科生徒

此項ニ依レハ東京大學法。理。文。醫。四學部本科學生ハ申スニ及ハス工部大學校司法省法學校若クハ農商務省管轄農學校ノ如キモ亦其本科生徒ノ徵集ヲ猶豫セラルヘク此項ニ當レルモノ、猶豫ハ第卅一條及ヒ第卅三條ニモ定メラレタル如ク本科二ヶ年以上ノ課程ヲ卒ル時ハ第一豫備徵員トセラシ戰時若クハ事變ニ際シテ兵員ヲ要スル時ノミニ於テ徵集セラル、ノミナラス殆ント平時免役ヲ得タルモノト同シ

第四項 第五項 第六項

第七項 學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者

舊令第三十條第八項ニ於テ學術修業及ヒ商用等ニテ外國ニ寄留スル者ハ平時一ヶ年限リ徵集ヲ猶豫セラレシカトモ新令ヲ以テ學術修業ノミヲ猶豫セラル、コトニナリ七ヶ年間

其事故ノ存スル時ハ第二豫備員ノ区内ニ入レラル、ナリ

第八項 此項ハ舊令第三十條第十項ヲ改正セラレタルモノナリ

第九項 此項ハ今度更ニ設ケラレタルモノナリ

第十九條 官立府縣立學校(小學校ヲ除ク)ニ於テ修業一個年以  
上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ六個年以内徵集ヲ猶豫ス

此條ハ舊令第三十條第六項第七項ヲ改正セラレタル者ニテ  
此條ニ當ル者ハ六個年以内ノ猶豫ヲ得テ後ニ徵集ニ應スヘ  
キ者ナレハ其課程卒業ニ至ル迄ノ猶豫ヲ得ルノ特典アリ元  
來徵兵ノ制ニ最モ憂フヘキハ幼壯者カ教育ヲ受ク可キ至要  
ノ期ヲ奪ヒ去ラレテ爲メニ學術文化ノ進歩ヲ妨クルニ在リ  
然ルニ此條ノ特典ニテ少年子弟ノ教育ヲ妨クルコトナク又  
高等専門ノ學術ヲ修メントスル者ノ獎勵トモナルヘキナリ

第二十條 左ニ掲クル者ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトヲ問

ハス復習點呼ノ爲メ召集スルコトナシ但シ戰時若クハ事變ニ  
際シテハ太政官ノ決裁ヲ經テ召集スルコトゲルヘシ

第一項 官吏(判任以上)及ヒ局長第二項教導職(試補ヲ除ク)

第三項官立公立學校教員第四項府縣會議員第五項官立府縣  
立醫學校ノ卒業證書ヲ所持シテ醫術開業ノ者

凡ソ一タヒ常備兵籍ニ加ハリタルモノハ皆復習點呼ノ召集  
ニ應セサル可ラサントモ現役後勅奏判ノ官吏トナリ若クハ  
局長ノ職ヲ奉シ教導職(試補ヲ除ク)官立公立學校教員府縣  
會議員ノ職ニ在リ又ハ官立府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ所持  
シテ醫術開業ノ者ノミハ復習點呼ニ應シテ定メノ場所ニ出  
頭スルニ及ハスト定メラレタルハ爲メ公務ヲ妨ク衛生ノ仁  
術ヲ害セサル爲メニ設ケラレタル特例ト知ルヘシ

第二十一條 官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可ラサル技術ノ職ヲ奉スル者ハ太政官ノ決裁ニ依テ徵集ヲ猶豫スルコトアルヘシ

此條ハ舊令第卅一條餘人ヲ以テ代フ可ラサル事務ヲ奉スルモノトアルヲ技術ノ職ト改正セラレタルモノコト例ヘハ電信技術師ノ如キ工師測量師或ハ印刷局職員中ノ技術家等ノ如キ熟練其人ニ非ラサレハ他ニ求ムルニ難キ人々ヲ指セルモノコト通常ノ事務官ハ此例ニ依リテ猶豫ノ特典ヲ得ル能ハス蓋シ事務官ハ得易ク技術家ハ得難クレハナリ

第二十二條 左ニ掲クル者ハ第十七條ニ照シ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス

第一項 附籍戸主及ヒ附籍戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫是ハ舊徵兵事務條例第百四十八條ニ附籍戸主ハ免役ニ屬シ其嗣子或

ハ承祖ノ孫ハ免サストイフヲ改メラレタル者ナリ

第二項 癡疾或ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルコト非スシテ嗣子承祖ノ孫若クハ相續人ヲ罷テ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

癡疾不具又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノニハ一家ヲ相續セシメサルハ至當ノ事ニシテ之ヲ廢シテ後チ他子ヲ立ツルハ可ナルヘキモ敢テセサル理由ナキニ嗣子ヲ廢スルハ詐僞ニ非サレハ甚々謂レナキノ事ナリ例ヘハ父六十歳以上長子(嗣子)三十歳次子十九歳トスル時ハ其次子ハ徵集ニ應セサル可ラサルモ嗣子ト爲ル時ハ猶豫ヲ得ヘシ此場合ニ於テ父正當ノ理由ナキニ嗣子(長子)ヲ廢シテ次子ヲ立テ以テ徵集ヲ免レシムル如キハ就役ヲ避ントスル者ノ常ニ施シテ恥トセサル所ナリケレハ舊令第廿八條第三項コトモ之ヲ制セラ

レ今又其文字ヲ修正セラレタルナリ

第三項 年齢六十歳未満ノ戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ年齢六十歳以上ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

年齢六十歳以上又ハ癡疾不具又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノニシテ戸主ヲ罷ムルハ至當ナレトモ苟クモ然ラスシテ戸主ヲ罷メ六十歳以上ノ者(六十以上ノ者ニシテ家名ヲ相續スル者ハ間々アリテ之ヲ許ストキハ其嗣子タルモノハ猶豫ヲ得ヘキモノ)ニ相續セシムルハ甚々謂レナキ事ナレハ之ヲ制止セラレシナリ

第四項 分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戸主及ヒ其戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

此條ハ舊令第廿八條第一項第三項及ヒ第廿九條第一項但書ノ意ト略同シ

第五項

第六項 第二項第三項第四項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニアラスシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主

此條モ前數項ト同シク戸主カ癡疾不具ニシテ一家ノ生計ヲ營ム事能ハサルニ非ス又重罪ノ刑ニ處セラレタルニモアラサルニ他ノ事故又ハ勝手ニ戸主ヲ罷メテ其跡ノ戸主ニナリタルハ又甚々謂レナキコトニ依リ猶豫ノ限外ニ在ルナリ

第七項 年齢六十歳未満ノ者癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル

ニアラスシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主

年齢六十歳未滿ノ者廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ヌ又重罪ノ刑ニ處セラレタルニモアラズシテ戸主ヲ罷メタルハ是又隨意ノ措置ナレハ之カ跡ヲ繼キタル戸主モ猶豫ノ限ニアラサルナリ

第八項 嗣子承祖ノ孫又ハ相續人廢疾又ハ不具等ニテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ヌ或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非ヌシテ戸主ノ死亡跡若クハ戸主ヲ罷メタル跡ヲ繼カス他ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主

廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコトモ能ハサルニ非ヌ又重罪ノ刑ニ處セラレタルニモアラサル嗣子承祖ノ孫又ハ相續人ナレハ戸主ノ跡ヲ繼キ戸主トナリテ差支ヘナキ等ナルニ之ヲ措キ別ニ他ヨリ迎ヘテ戸主ノ跡ヲ繼カシメタ

ル戸主ハ又猶豫ノ限ニアラサルナリ

第九項 戸主失踪シテ五ケ年ヲ經サル者ノ跡ヲ繼キタル戸主戸主失踪ノ後五ケ年ヲ經サレハ之カ跡ノ戸主ニナリタルトテ徴集ヲ猶豫セラレサルナリ

第二十三條

是ヨリ以下ノ條項ハ大抵解釋ヲ要セスシテ瞭然タルモノ多クレハ總テ省略ス猶近日陸軍省ヨリ徴兵事務條例トイヘルモノヲ布達セラレヘキニ依リ之ト相看觀シテ可ナリ

第三卷 條例

第九章 質屋取締條例

○明治十七年三月廿五日太政官第九號布告

質屋取締條例別冊ノ通制定シ明治十七年三月十五日ヨリ施行ス  
右奉 勅旨布告候事

(別冊) 質屋取締條例

第一條 質屋營業ヲ爲ス者ハ管轄廳(東京府ハ警視廳)ノ免許ヲ  
受クヘシ

第二條 質屋ハ質物臺帳ヲ備ヘ其紙數ヲ記シ所轄警察署ノ捺印  
ヲ受クヘシ

第三條 質物臺帳ニハ警察官ニ於テ質物貸金質入主及質入受戻  
入換ノ年月日ヲ調査スルニ差支ナキ様記載スヘシ但證人ヲ要  
スルトキハ入主及證人ノ實印ヲ捺捺セシメ置クヘシ

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス

但身元詳ナル者證人タルトキハ此限ニアラス

第五條 十五年未滿ノ者白痴瘋癲者及雇人(雇主ノ家ニアル者)  
ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス

但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者證人タルトキハ此限ニ  
アラス「官廳、町村、學校、病院、社寺、會社」ノ印章記號アル物  
品ハ其質入シ得ヘキコトヲ証明スル証人二名以上アルコト非  
サレハ之ヲ質物ニ取ルコトヲ得ス「前二項ニ違背シタル者  
ハ警察官ノ命ニ依リ元利金ヲ償フコト無ク質物ヲ取戻サル  
ハコトアルヘシ

第六條 盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條  
ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ質ニ取リ又ハ寄藏シタルトキ  
ハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第七條 贓物ノ疑アル物品又ハ身柄不相應ト認メタル物品ヲ持來ル者アルハ直ニ所轄警察署又ハ巡行ノ警察官巡查ニ密告スヘシ

第八條 流質物ヲ賣拂ハントスルトキハ五日以前ニ其物品目錄ヲ所轄警察署ニ差出スヘシ

第九條 流質物ヲ賣拂ヒタルトキハ警察官ニ於テ其物品代價及買主ヲ調査スルニ差支ナキ様流質物賣拂帳ニ記載スヘシ

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ

第十一條 品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ質ニ取り又ハ寄藏シタルトキ若クハ其以前ノ質物及寄藏品中ニ類似ノ物品ヲ發見シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第十二條 質物臺帳流質物賣拂帳及品觸寫書ハ十年間保存スヘシ

シ若シ亡失シタルハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第十三條 警察官ハ何時タリモ質屋ノ店舖ニ臨ミ質物及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其質物ヲ差押ヘ又ハ時々帳簿ヲ差出サシメ之ヲ検査スルコトアルヘシ質屋ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 此條例ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此條例ヲ一年內ニ再犯シタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ或ハ停止スルコトヲ得

第十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ斂罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十七條 營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第十八條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事(東



京府ヲ除ク。縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ツヘシ  
第十章 古物商取締條例

○明治十六年十二月二十八日第五拾號布告

第一條 古物商トハ古道具、古本、古書畫、古着、古銅鐵、潰金銀  
ヲ賣買スル營業者ヲ云フ

袋物屋小間物屋監申屋時計屋飾屋箔打屋煙管屋ニシテ其營業  
ニ屬スル古物ヲ賣買交換スル者及ヒ刀劍商ハ此條例ニ準據ス  
ヘシ

第二條 古物商ハ管轄廳(東京府ハ警視廳)ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 古物商物品ヲ賣買シ又ハ交換シタルトキハ警察官ニ於  
テ其物品及ヒ賣主讓主ヲ調査スルニ差支ナキ様簿冊ニ記載シ  
且買主讓主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコト

ヲ得ス但身元詳ナル者其證人タルトキ又ハ警察官若クハ巡查  
ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス

第五條 十五年未滿ノ者白癡瘋癲者及ヒ雇人(雇主ノ家ニアル  
者)ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス但父母後見人  
雇主又ハ身元詳ナル者其證人タルトキハ此限ニアラス

官廳、町村、學校、病院、社寺、會社ノ印章記號アル物品ハ其賣  
却シ得ヘキコトヲ證明スル證人貳名以上アルニ非サレハ之ヲ  
買取り又ハ交換スルコトヲ得ス

前貳項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニヨリ無代價ニテ物品ヲ  
取戻サル、コトアルヘシ

第六條 古物商ハ營業者タルト否トヲ問ハス盜罪詐欺取財ノ罪  
又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ  
物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏スルトキハ警察官ノ許可ヲ

受シヘシ違フ者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 古物商ハ自宅又ハ許可ヲ受ケタル市場及ヒ賣主讓主ノ居室ノ外ニ於テ物品ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ス

第八條 刀劔又ハ之ヲ仕込ミタル器具ハ身元詳ナラサル者及ヒ盜罪賭博ノ處斷ヲ受ケタル者ニ賣渡讓渡シ又ハ露店及ヒ路傍ニ於テ賣渡讓渡スルコトヲ得ス

第九條 古物商物品ヲ他府縣ニ運送セントスルトキ又ハ他府縣ヨリ受取リタルトキハ其物品ノ目錄ヲ所轄警察署ニ届出ツヘシ

警察官ハ時宜ニ依リ荷作ヲ解キ物品ヲ検査シ之ヲ差押フルコトアルヘシ但費用ハ届入之ヲ擔當スヘシ  
第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫

書ニ附記スヘシ

第十一條 品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏シタルトキ若クハ其以前ニ之ヲ得タルマ、所持シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ若シ届出テスシテ其理由ヲ辨解スルコト能ハサル者ハ第六條ノ刑ニ同シ

第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル簿冊及ヒ品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第十三條 警察官ハ何時アリトモ古物商ノ店舗ニ臨ミ物品及ヒ簿冊ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其物品ヲ差押ヘ又ハ時々簿冊ヲ差出サシメ之ヲ検査スルコトアルヘシ古物商ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 第二條第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十

條第十二條第十三條ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ  
貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第六條第十一條第十四條及ヒ刑法第三百九十九條第

四百一條ノ處斷ヲ受ケタル古物商ハ管轄廳(東京府ハ警視廳)  
ニ於テ三月以上三年以下ノ特別取締ニ付スルコトヲ得

第十六條 特別取締ニ付セラレタル者ハ尙ホ左ノ項目ニ從フヘ

シ

一 物品ヲ買取リ又ハ交換シタルトキハ其賣主讓主ノ住所氏  
名年齢及ヒ物品ノ形狀(徽章番號柄摸機損所ノ類ヲ云  
フ)價額年月日時ヲ簿冊ニ記載スヘシ

二 日出前日没後ハ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏スルコ  
トヲ得ス

三 營業者ニアラサル者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換シタルト

キハ其物品ヲ原狀ノ儘五日間保存スヘシ

四 物品ヲ賣渡シ又ハ交換シタルトキハ其物品ノ形狀價額年  
月日時ヲ簿冊ニ記載シ且買主讓受主ノ住所氏名年齢ヲ知  
リ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

五 毎月一度物品賣買交換ノ簿冊ヲ所轄警察署ニ差出シ其檢  
査ヲ受クヘシ

六 住所ヲ移轉シ又ハ旅行シ又ハ他人ヲ宿泊同居セシメント  
スルトキハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ

第十七條 前條ニ違背シタル者ハ三圓以上三百圓以下ノ罰金ニ  
處ス

第十八條 特別取締ニ處セラレタル者第六條第十一條第十四條  
第十七條ニ依リ罰金ニ處セラレタルトキハ直ニ之ヲ納完セシ  
ム若シ納完セサル者ハ留置セラル、ユトアルヘシ

古物商取締條例

四百四十二

第十九條 古物商一年內ニ此條例ヲ再犯シタルトキハ行政ノ處  
分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒ  
ス

第二十一條 此條例ヲ犯シテ買取り又ハ交換シタル物品贓物ニ  
係ルモノハ營業者ニ依ルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ追  
徴シテ被害者ニ還付スヘシ若シ被害者知レサルトキハ之ヲ領  
置シ一年ノ後官沒ス

第二十二條 商業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者  
其責ニ任スヘシ

第二十三條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事（  
東京府ヲ除ク）縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ヘ届出ツヘシ

第十一章 地租條例

○明治十七年三月十五日太政官第七號布告

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年（七月）第二百七拾二號布告地  
租改正條例及地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ抵觸スルモノ  
ハ廢止ス（但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣  
根室縣ハ當分從前ノ通タルヘシ）

右奉 勅旨布告候事

地租條例

第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス但本條  
例ニ地價ト稱スルハ地券ニ掲ケタル價額ヲ謂フ

第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ増減セス

第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、郡村宅地、市街宅地、鹽田、鑛泉地

地租條例

四百四十三

地租條例

四百四十四

第二類 池沼、山林、原野、雜種地第一類中又ハ第二類中ノ各地  
目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ第二類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成、等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條 公立學校地、鄉村社地、墳墓地、用惡水路、溜地、隄塘、井溝、及公衆ノ用ニ供スル道路ハ地租ヲ免ス

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用イ六尺ヲ間ト爲シ方一間ヲ以テ步ト爲シ三十步ヲ畝ト爲シ十畝ヲ段ト爲シ十段ヲ町ト爲ス但市街宅地ハ方一間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ十分一ヲ合ト爲シ合ノ十分一ヲ勾ト爲ス

第六條 開墾、墾下年期明荒地免租年期明ニテ地價ヲ定ルトキ又ハ地目變換スルルルハ地盤ヲ丈量ス

第七條 地價ハ地目變換又ハ開墾ニ非カレハ修正セス

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルルルハ前以テ其旨ヲ布告スル

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ詮定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應ジ之ヲ定ム

第十條 地目ヲ變換スルルルハ之ヲ地方廳ニ届出ツヘシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ修正ス

第十一條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルルルハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ定ム

第十二條 地租ハ地券記名者ヨリ徵收ス但賃入ノ土地ハ其賃取主ニ於テ之ヲ納ムヘシ

第十三條 有租地ヲ公立學校地、鄉村社寺、墳墓地、ト爲スルル其地租ハ許可ヲ得シ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免シ用惡水路、溜池、

地租條例

四百四十五

隄塘、井溝、公衆ノ用ニ供スル道路ト爲スル其地租ハ其地工事着手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス免租地ヲ有租地ト爲スル其地租ハ許可ヲ得シ翌月分ヨリ月割ヲ以テ徴收ス

第十四條 地目變換ハ其地價修正ノ年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徴收ス

第十五條 開墾地ハ鐵下年期明荒地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ更定地價ニ依リ地租ヲ徴收ス

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ開墾地ハ十五年以内ノ鐵下年期ヲ許可ス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徴收ス

第十七條 鐵下年期中當初ノ目的ヲ改メ他ノ地目ニ變スルルハ之ヲ地方廳ニ届出ツヘシ此場合ニ於テハ直ニ其地價ヲ定メ又ハ更ニ鐵下年期ヲ許可スルコトアルヘシ

第十八條 鐵下年期明ニ至リ開墾ノ成功ニ至ラサルモノハ更ニ十五年以内鐵下繼年期ヲ許可ス

第十九條 鐵下年期明ノトキハ其地價ヲ修正ス若シ其開墾當初ノ目的ニ達セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正ス

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十一條 免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十年以内七割以下低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ免年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十年以内免租繼年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第貳拾壹條第貳拾貳條ニ依テ處分ス

第貳拾四條 川成、海成、湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ貳拾年以内免租繼年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、湖ニ歸スルモノトテ其地券ヲ還納セシム

第貳拾五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ遁脱スル者ハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徴ス但地租改正ノ初年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第貳拾六條 第拾壹條第拾六條ニ違犯スル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ其免租地ヲ有利地ト爲シ又ハ開墾ヲ爲スコトヲ許可スヘキモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ

追徴ス但地租改正ノ初年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第貳拾七條 第拾條第拾七條ニ違犯スル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第貳拾八條 第貳拾五條以下ノ所犯借地人小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス

第貳拾九條 第貳拾五條第貳拾六條第貳拾七條第貳拾八條ノ刑ニ當ル者自首スルハ其罰金科料ヲ免ス但其追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

第拾二章 郵便條例

○明治十五年十二月十六日第五拾九號布告

第壹章 郵便物

第壹條 每郵便物別テ四種ト爲ス

一 書狀

二 郵便葉書

三 毎月壹回以上發行スル定時印刷物及其附錄

四 書籍、帳簿、各種ノ印刷物、寫眞、書畫、繪圖、罌紙、營業品ノ見本及雛形

第貳條 何品ヲ問ハス此條例ニ抵觸セサルモノハ第一種郵便物トナスヲ得

第三條 封緘シタル郵便物ハ第一種郵便物トナスヘシ

第四條 第二種郵便物ヲ他種ノ郵便物ト合裝スルトキハ總テ第

一 種郵便物トナスヘシ

第五條 第二種郵便物左ニ記載シタル所爲アルキハ第一種郵便

物トナスヘシ

一 截斷又ハ破却シタルモノ

一 稅額印面ニ文字ヲ書シタルモノ

一 稅額印面ニ郵便切手ヲ貼付シタルモノ

一 紙配達又ハ返戻ノ爲其他ノ品ヲ貼付シタルモノ

一 一葉ヲ折り之ヲ全ク糊着シ又ハ數葉ヲ合セ之ヲ全ク糊着シタルモノ

一 表面ニ音信文ヲ記載シタルモノ

第六條 第三種郵便物ハ其發行人ヨリ定時印刷物タルヲ證シ驛

遞總官ノ認可ヲ受ケ驛遞局認可ノ文字ヲ印刷スヘシ

但其文字標題番號及發行ノ年月日ヲ見易カラシムヘシ



其附録ハ其本紙ノ標題番號及發行ノ月日ヲ印刷シ冊子トナサ  
スシテ本紙ニ添付シ且本紙ノ重量ニ超過セサルモノニ限ルヘ  
シ

第七條 第三種第四種郵便物ハ封緘セサルモノトス

第八條 第三種第四種郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スル  
トキハ第一種郵便物トナスヘシ

第九條 營業品ノ見本及雛形ハ雙方又ハ一方營業者ト往復スル  
モノニ限ルヘシ

第十條 營業者ニアラサルモノ、間ニ往復スル見本及雛形ハ第  
一種郵便物トナスヘシ

第十壹條 異種ノ郵便物ヲ合裝スルトキハ總テ其種類中高額稅  
ヲ課スヘキ郵便物トナスヘシ但第四條ニ記載シタルモノハ此  
限ニアラス

第十貳條 郵便物ノ重量ハ郵便切手封皮帶紙ノ重量ヲ合算スル  
モノトス

第十參條 第三種第四種郵便物 營業品ノ見本  
及雛形ヲ除クハ一個ノ重量三百  
目ニ超過スヘカラス

第十肆條 營業品ノ見本及雛形ハ一個ノ重量四十八匁ニ超過ス  
ヘカラス

第十伍條 郵便物ノ大サハ曲尺ニテ長一尺二寸幅八寸厚五寸ニ  
超過スヘカラス

第十陸條 左ニ記載シタルモノハ郵便物トナスヘカラス

- 一 毒藥、劇藥、流動物、流動爆發燃焼腐敗シ易キ物、孳化スヘキ物、
- 動物、植物、及鋒刃器、硝子、陶器等ノ損傷シ易ク又他ノ郵便
- 物ヲ損害スヘキ物品
- 一 風俗ヲ害スヘキ文書、畫圖、寫眞及物品

一金銀、寶玉

一貨幣但十章ノ規則ニ從フモノハ此限ニアラス

第二章 郵便税

第拾七條 郵便税ハ郵便物ノ種類ニ從ヒ其額ヲ定ム

第一種郵便物 重量ニ匁毎ニ八匁未満亦同シ

第二種郵便物 一葉

第三種郵便物 一號一箇重量十六匁毎ニ十六匁未滿亦同シ

第四種郵便物 二號又ハ三號以上一束重量十六匁毎ニ十六匁未滿亦同シ

第拾八條 郵便税ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之

ヲ納メタルモノトス郵便封皮葉書帶紙ハ切手ヲ貼付シタルト

同般ナリトス但驛遞總官ト約定アルモノハ此限ニアラス

第拾九條 納税ニ用ヒタル郵便切手并封皮葉書帶紙ノ税額印面

貳錢 壹錢 壹錢 貳錢

ハ郵便局ニ於テ消印スヘシ

第貳拾條 郵便税ニ過納アルモ已ニ其税額印面ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セス

第貳拾壹條 未納税又ハ不足税ノ郵便物ハ受取人ヨリ其額ノ二倍ヲ徴収スヘシ

受取人其郵便物ヲ受取リタルトキハ其納税ヲ拒ムヘカラス

受取人其郵便物ヲ受取ラスシテ差出人ニ還付スルトキハ其差出人ヨリ其額ノ三倍ヲ徴収スヘシ

第貳拾貳條 未納税又ハ不足税ノ郵便物配達シ能ハス差出人ニ還付スルトキハ其額ノ二倍ヲ徴収スヘシ差立前ニ係ル未納税又ハ不足税ノ郵便物ヲ差出人ニ還付スルキ亦同シ

第拾貳三條 第拾三條第拾四條第拾五條ニ背戻スル郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキハ未納税又ハ不足税ノ二倍ヲ徴収スヘシ

第貳拾四條 人民ヨリ官廳ニ差出ス郵便物ハ郵便稅完納ニ限ル  
ヘシ未納稅又ハ不足稅ノモノハ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ  
徴収スヘシ

第貳拾五條 未納稅又ハ不足稅ヲ徴収スルトキハ郵便局ニ於テ  
郵便切手ヲ郵便局ニ貼付シ其切手ニ未納又ハ不足ノ印ヲ捺シ  
其証トナスヘシ

第三章 郵便切手封皮葉書帶紙

第貳拾六條 郵便切手封皮郵便葉書帶紙ハ日本政府ニ  
於テ發行セシムルモノタルヘシ

第貳拾七條 郵便切手封皮葉書帶紙ハ郵便稅納ノ証トナシ又郵  
便切手ハ書留手数料并別配達料納濟ノ証トナスモノトス

第貳拾八條 郵便封皮ヲ用ユルトキ其郵便物ノ重量ニ因テ稅額  
ニ不足ヲ生スルトキハ郵便切手ヲ以テ之ヲ補フヘシ

第貳拾九條 郵便封皮ノ價位ハ其印面ノ稅額ニ製造費ヲ加ヘタ  
ル額ヲ以テ驛遞總官之ヲ定ムヘシ

第三拾條 郵便帶紙ハ第三種郵便物一號一箇ヲ以テ達スルモノ  
ニ用ユヘシ但重量十六匁以下ノモノニ限ルヘシ

第三拾壹條 郵便帶紙ハ第三種郵便物發行人若クハ賣捌人ノ請  
求ニ依リ驛遞局ニテ賣下クヘシ

第三拾貳條 郵便切手封皮葉書ヲ賣ルモノハ驛遞總官ノ免許ヲ  
受ケ郵便切手賣下所ノ標板ヲ掲クヘシ

第三拾三條 郵便切手封皮葉書ハ郵便局郵便受取所郵便切手賣  
下所ノ外ニ於テ賣買スヘカラス

第三拾四條 郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ハ郵便切手封皮  
葉書ノ印面稅額ヨリ低價ヲ以テ賣ルヘカラス

第三拾五條 郵便封皮葉書帶紙ノ稅額印面ヲ切取リ郵便切手ニ

代用スルモ其効用ヲ有セス

第三拾六條 郵便切手并封皮葉書帶紙ノ汚斑毀損捺印アルモノ及稅額印面不明瞭ナルモノハ其効用ヲ失フ然レモ其未タ使用セサルモノニ限リ二人以上ノ証人ヲ立テ其原由ヲ明瞭ナラシムルトキハ驛遞局ニ於テ定價十分二減ニテ買戻スヘシ  
第三拾七條 驛遞局及一等郵便局ニ於テハ四枚以上聯續シタル郵便切手并封皮葉書帶紙ヲ其所持人ノ請求ニ依リ定價十分一減ニテ買戻スヘシ

第四章 免稅郵便

第三拾八條 郵便、郵便爲替及貯金ノ事務ニ關スル郵便物ハ其稅ヲ免除ス

第三拾九條 免稅郵便物ハ驛遞局郵便局府縣廳府縣所屬廳郡區役所并以上各廳派出官使相互ノ間又ハ之ト往復スルモノニ限

ルヘシ

第四拾條 免稅郵便物ハ表面ニ郵便事務爲替事務貯金事務ノ文字ヲ記載スヘシ

第四拾壹條 官廳ニ宛テ又ハ官廳ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名若クハ廳名課名ヲ記載シ派出官吏ニ宛テ又ハ派出官吏ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名ヲ記載スヘシ

第四拾貳條 人民ヨリ差出ス免稅郵便物ハ宿所氏名ヲ記載スヘシ

第四拾三條 免稅郵便物ニ他ノ音信文或ハ暗號隱語ヲ記載シ又ハ有稅郵便物ヲ附シタルモノハ相當種類ノ郵便稅ヲ徵收スヘシ

第五章 書留郵便

第四拾四條 書留郵便物ハ郵便局ノ帳簿ニ登記シ遞送配達ノ受

授ヲ証スルモノトス

第四拾五條 書留手数料ハ郵便物ノ何種ニ拘ハラズ六錢トス

第四拾六條 書留郵便物ハ郵便稅手数料共前納ニ限ルヘシ

第四拾七條 書留手数料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ

以テ之ヲ納メタルモノトス

第四拾八條 書留郵便物ヲ差出ストキハ其表面ニ書留ト記載シ

郵便局若クハ郵便受取所ニ於テ之ヲ主務者ニ交付シ印刷シタ

ル式紙ニ郵便局若クハ郵便受取所ノ印及主務者ノ印ヲ捺セル

受取証書ヲ受領スヘシ

第四拾九條 書留郵便物ノ配達ヲ受ケタルモノハ其差出人及受

取人ノ氏名配達ノ年月日ヲ記シタル受取証書ニ調印スヘシ本

人不在ナルトキハ其代人記名調印スヘシ

第五拾條 免稅郵便物ハ書留手数料ヲ納ムルコ及ハス

第六章 郵便物遞送配達

第五拾壹條 郵便物遞送配達ハ郵便局ニ於テ之ヲ管スルモノト

ス

第五拾貳條 郵便局ノ廢置ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ之ヲ公告ス

ヘシ

第五拾三條 郵便物ハ其宛名ノ家ニ配達シ二名以上ニ宛タルモ

ノハ其内ノ一名ニ配達スヘシ肩書寄宿所ノ類似アルモノハ其

肩書ノ家ニ配達スヘシ

第五拾四條 完納稅郵便物宛名ノ家ニ於テハ其配達ヲ拒ムヘカ

ラス免稅郵便物亦同シ但市外別配達料船貨幣遞送配達賃ニ

追納アルモノハ此限ニアラス

第五拾五條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物受取人ニ於テ其稅ヲ納

メサルトキハ之ヲ受取ルヲ得ス

第五拾六條 郵便物ヲ開封シ又ハ其帶紙或ハ結束ヲ脱シ或ハ音信文ヲ讀過スルキハ之ヲ受取リタルモノトナスヘシ但第百拾五條ノ郵便物ハ此限ニアラス

第五拾七條 郵便物配達ヲ受ケタル肩書ノ家ニ於テ其受取人移轉シタルトキハ直ニ之ヲ其配達人ニ還付スルカ或ハ其郵便物ニ加記又ハ附箋シ再ヒ郵便ニ出スヘシ但受取人ニ達スル爲メ其家ニ留メ置クモ日數三十日ニ過クヘカラス

第五拾八條 其家ニ属セサル郵便物ノ配達ヲ受ケタルトキハ其由ヲ附箋シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ  
其郵便物ヲ誤テ開封シタルトキハ更ニ封緘シ其事由ヲ副書シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ

第五拾九條 配達シ能ハス或ハ未納稅又ハ不足稅ヲ受取人ニ於テ納メサル郵便物ハ之ヲ其差出人ニ還付スヘシ但二名以上ヨ

リ差出シタルモノハ之ヲ其内ノ一名ニ還付スヘシ

第六拾條 第拾三條第拾四條第拾五條ニ背戾スル郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第六拾壹條 差立前ニ係ル郵便物ハ差立人ノ請求ニ依リ之ヲ還付スルコトアルヘシ

第六拾貳條 第四種郵便物ハ次便ヲ以テ遞送スルコトアルヘシ

第六拾三條 遞送及集配ノ途中ニ係ル郵便物ハ其郵便物ノ受取人タリトモ受授スヘカラス

第六拾四條 郵便局所在地ニ於テハ集配人ニ郵便物ノ差出方ヲ委托スヘカラス又集配人ハ其委托ヲ受クヘカラス

第六拾五條 郵便物ハ差出人ノ爲メ郵便局ニ於テ之カ秤量ヲナサス

第六拾六條 郵便物ノ損害紛失及其損害紛失又ハ遲達ヨリ生シ

タル損失ハ驛遞局之ヲ償フノ責ニ任セス

第六拾七條 書狀ハ驛遞局ヲ經由セサレハ之ヲ送達シ又ハ送達

セシムヘカラス但左ニ記載シタルモノハ此限ニアラス

一送達料ヲ拂ハス臨時ニ親族朋友雇人ノ類ヲ以テ其發信者ヨ

リ受信者ニ直ニ達スルモノ

一郵便ニ依ル能ハサル事故アリテ臨時ニ特使ヲ以テ其發信者

ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ

一貨物ト共ニ發スル無封ノ添狀送狀

第六拾八條 軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡内國各地ニ往復ス

ル船車ノ所有主若クハ其代理者ハ驛遞局又ハ郵便局ヨリ左ニ

記載シタル運送賃額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ

拒ムヘカラス

但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス

一第一種郵便物ハ一個壹錢ニ超過セサル額

一第二種以下ノ郵便物ハ一個五厘ニ超過セサル額

第六拾九條 郵便物運送ノ約定ヲ爲シタルモノ或ハ運送ノ托ヲ

受ケタルモノ其出發ノ日時ヲ定メ若クハ既定ノ日時ヲ變更ス

ルキハ速ニ之ヲ其地ノ郵便局ニ届出ツヘシ

第七拾條 時期ヲ定メテ郵便物運送ノ命ヲ受ケタルモノハ其期

ヲ變更スヘカラス

第七拾壹條 郵便物ノ運送ヲ爲スモノハ其郵便物ヲ安全ニ保護

スヘシ

第七拾貳條 郵便物ヲ積載セル船舶ハ到達地ニ於テ其郵便物ヲ

陸揚セシ後ニアラサレハ他ノ積載セル貨物ヲ陸揚スヘカラス

第七拾三條 郵便物配達又ハ還付ヲ受ケタルモノ郵便局ニ於テ

調査ノ爲メ其郵便物ノ封皮帶紙又ハ葉書ノ交付ヲ求メラル、

トキハ之ヲ拒ムヘカラス但郵便切手貼付アルモノハ其儘交付スヘシ

第七章 別配達郵便

第七拾四條 別配達郵便物ハ書留郵便ニ限ルモノニシテ通常配達ノ例ニ拘ハラス別ニ急速ノ配達ヲナスモノトス

第七拾五條 別配達別テ二類ト爲ス

一 市内郵便局所在地別配達

一 市外郵便局未設地別配達

第七拾六條 市外別配達料ハ東京京都及大坂ハ拾錢其他ノ市外ハ六錢トス

第七拾七條 市外別配達料ハ配達ノ郵便局ヨリ受取人ノ住所ニ至ル路程ニ應シ十八町毎ニ六錢トス十八町未滿亦同シ

第七拾八條 別配達ハ郵便税并別配達料共前納ニ限ルヘシ

第七拾九條 別配達料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第八拾條 市外別配達ハ配達地ニ到リ路程ノ差違ニ因テ其料ニ不足ヲ生スルモ其料六錢以上納濟ノモノハ仍ホ別配達トシテ取扱ヒ受取人ヨリ其不足額ヲ徴收スヘシ

第八拾壹條 市外別配達料不足額ヲ徴收スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ不足ノ印ヲ捺シ其証トナスヘシ

第八拾貳條 船舶ニ達スル別配達ハ其船舶ノ碇泊所ニ從ヒ別配達料ノ外相當ノ艀船料ヲ受取人ヨリ徴收スヘシ

第八拾三條 市外別配達料不足額又ハ艀船料ヲ受取人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取ルヲ得ス



其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額ヲ徴收スヘシ

第八拾四條 別配達郵便物ヲ受取リタルモノハ市外別配達料不足額又ハ船船料ノ納付ヲ拒ムヘカラス

第八拾五條 別配達ハ各郵便局ノ配達區域ニ拘ハラサルモノトス

第八拾六條 甲郵便局所在地ニ達スルモノヲ乙郵便局ヨリ配達スルトキハ市外別配達トナスヘシ

第八拾七條 市内別配達ハ其郵便物ノ表面ニ別配達ト記載スヘシ

第八拾八條 市外別配達ハ其郵便物ノ表面ニ何地郵便局ヨリ別配達ト記載スヘシ若シ其郵便局ヲ定メ難キトキハ單ニ別配達トノミ記載スヘシ

第八拾九條 別配達トノミ記載セルモノハ各郵便局ノ配達區域

ニ從ヒ其地ノ郵便局ヨリ配達スヘシ

第九拾條 別配達郵便物受取人移轉シ其移轉先ニ達スルトキハ別配達トセスシテ配達スヘシ

第九拾壹條 免稅郵便物ハ別配達料船船料ヲ納ムルニ及ハス

第八章 郵便私書函

第九拾貳條 郵便私書函ハ郵便局ニ設置シ其開閉ニ供スル適當ノ鍵ヲ渡シ貸與スルモノトス

第九拾三條 私書函ノ借受人ニ宛テタル郵便物ハ其住所ニ配達セズ私書函ニ入置クヘシ

第九拾四條 私書函貸與料ハ一ヶ月金三圓以下ヲ以テ驛遞總官之ヲ定ムヘシ

第九拾五條 私書函貸與期限ハ一ヶ月以上トシ其貸與料ヲ前納スヘシ

第九拾六條 私書函借受人ニ宛テタル別配達書留及未納稅不足稅ノ郵便物ハ私書函ニ入レスシテ其住所ニ配達スヘシ  
第九拾七條 私書函ハ二人以上又ハ二會社以上ノ名ヲ以テ其一個ヲ借受クルヲ得ス

第九拾八條 私書函貸與ノ滿期ニ至ルトキハ速ニ其鍵ヲ郵便局ニ返納スヘシ之ヲ返納セサルトキハ前期ヲ繼テ借受ケタルモノトナスヘシ

第九章 留置郵便

第九拾九條 留置郵便物ハ表記地名ノ郵便局ニ留置キ受取人ヲ待テ交付スルモノトス

第一百條 留置郵便物ハ其表面ニ何地郵便局留置ト記載スヘシ

第一百壹條 留置郵便物ヲ受取ルモノハ其受取人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ証スヘシ

第一百二條 留置郵便物ハ郵便稅完納ニ限ルヘシ

第一百三條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ヲ留置トナストキハ之ヲ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第一百四條 留置期限ハ九十日ニ限ルヘシ  
留置期限内ニ郵便物ヲ受取ラサルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第拾章 貨幣封入郵便

第一百五條 貨幣封入郵便物ハ驛遞總官ト約定アルモノヲシテ特別ノ方法ニ依リ之ヲ遞送配達セシムルモノトス

第一百六條 貨幣封入郵便物ハ其重量ニ從ヒ第一種郵便物ノ稅ヲ前納シ別ニ封入ノ金額送達ノ路程ニ從ヒ貨幣遞送賃及配達賃ヲ通貨ニテ納ムヘシ但貨幣送賃ハ差出人ニ於テ前納シ配達賃ハ受取人ヨリ納ムヘシ

第一百七條 貨幣遞送賃及配達賃額ハ驛遞總官各郵便局ニ揭示ス  
ヘシ

第一百八條 封入ノ金額ハ三拾圓ニ超過スヘカラス

第一百九條 封入ノ金額ハ其郵便物ノ表面ニ明記スヘシ

第一百拾條 貨幣封入郵便物ハ差出人ニ於テ同一ノ印判ヲ以テ四  
所以上封印ヲ捺スヘシ

第一百拾壹條 同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ差出ス貨幣封入  
郵便物ハ一日一個ニ限ルヘシ

第一百拾貳條 貨幣封入郵便物ハ其表記ノ金額及封印ヲ証トシテ  
受授スヘシ

第一百拾三條 貨幣封入郵便物ヲ差出ストキハ郵便局ニ設ケアル  
員數証書用紙ニ式ノ如ク記載シ其郵便物ノ封印ニ用ヒタル印  
判ヲ捺シ郵便物及貨幣遞送賃ト共ニ之ヲ主務者ニ交付シ印刷

シタル式紙ニ郵便局ノ印ヲ捺シ且主務者記名調印セル受取証  
書ヲ受領スヘシ

第一百拾四條 本人ノ封印ヲナシタル貨幣封入郵便物ヲ代人ヲ以  
テ差出シ員數證書ニ其代人ノ印ヲ捺ストキハ之ト同一ノ印ヲ  
其郵便物ニ四所以上捺スヘシ

第一百拾五條 貨幣封入郵便ニアラサル郵便物中貨幣封入アルヲ  
郵便局ニテ見出シ又ハ推察スルトキハ之ヲ貨幣封入郵便トシ  
テ取扱ヒ到達地ノ郵便局ニテ其受取人ヲ召喚シ或ハ遞送約定  
アルモノヲ以テ配達シ受取人ニ開封セシメ封入ノ金額ニ從ヒ  
差立地ヨリノ路程ニ應シタル貨幣遞送賃及配達賃ヲ受取人ヨ  
リ徴收スヘシ

第一百拾六條 貨幣遞送賃又ハ配達賃ヲ受取人ニ於テ納メサルト  
キハ其郵便物ヲ受取ルヲ得ス

其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額并還付ノ貨幣遞送賃及配達賃ヲ徴收スヘシ

第百拾七條 貨幣封入郵便物配達シ能ハス之ヲ差出人ニ還付スルトキハ更ニ相當ノ貨幣遞送賃及前後ノ配達賃ヲ徴收スヘシ  
第百拾八條 貨幣封入郵便物ノ受渡ニ属スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

第百拾九條 貨幣封入郵便物ヲ受取リタルモノハ其貨幣遞送賃又ハ配達賃ノ納付ヲ拒ムヘカラス

第百貳拾條 貨幣封入郵便物ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ郵便局ハ之ヲ償フノ責ニ任セス

第百貳拾壹條 郵便局主務者ノ疎虞懈怠ニ因リ貨幣封入郵便物ヲ失ヒタルトキハ主務者ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ  
第百貳拾貳條 貨幣封入郵便物ヲ遞送配達中失ヒタルトキハ強

盜難其他災變ニ罹リ看守者保護シ能ハサル實證アルモノ、外約定人ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ

第拾壹章 郵便沒書

第百貳拾三條 郵便沒書ハ配達シ能ハス又還付シ能ハサル郵便物ヲ驛遞局ニ没入スルモノトス

第百貳拾四條 驛遞總官ハ沒書ヲ開封シ其文書ニ就テ更ニ其配達又ハ還付ヲ試マシメ尙ホ配達又ハ還付シ能ハサルモノハ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第百貳拾五條 沒書ハ公告ノ日ヨリ一ケ年間驛遞局ニ保存スヘシ  
沒書中貨幣或ハ諸證書又ハ有價ノ物品アルトキハ驛遞局ノ帳簿ニ登記シ三ケ年間其沒書ヲ保存スヘシ但保存シ難キ物品ハ之ヲ賣却シ其代金ヲ領置スヘシ

第百貳拾六條 沒書チ一ケ年内ニ請求スルモノナキトキ及沒書中ノ貨幣諸証書有價ノ物品又ハ其賣却代金チ三ケ年内ニ請求スルモノナキトキハ之ヲ沒入スヘシ

第百貳拾七條 沒書中ノ貨幣諸証書有價ノ物品又ハ其賣却代金チ三ケ年内ニ請求スルモノアルトキハ之ヲ還付シ諸證書ハ手数數料ヲ徴收セスト雖モ貨幣或ハ有價ノ物品ハ其價額十分一チ手數料トシテ徴收スヘシ但其額ハ五圓ニ超過スルヲ得ス

第百貳拾八條 沒書ノ受取方チ請求スルモノハ其受取人又ハ差出人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ証スヘシ但驛遞局ニ於テ証人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第拾貳章 郵便爲替

第百貳拾九條 郵便爲替ハ驛遞總官ノ指定スル郵便局ニ於テ取扱フモノトス

第百三拾條 爲替ヲ取扱フ郵便局ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

第百三拾壹條 爲替証書一枚ノ金額ハ三拾圓以下トシ端數ハ厘位ヲ限リトス

第百三拾貳條 爲替料ハ驛遞總官之ヲ定メ新聞紙ヲ以テ公告シ及爲替ヲ取扱フ郵便局ニ揭示スヘシ

第百三拾三條 同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ宛テ同一ノ郵便局ニ於テ拂渡スヘキ爲替ノ振出ハ一日金額三拾圓ニ超過スヘカラス

第百三拾四條 爲替差出人ハ郵便局ニ設ケアル爲替願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ爲替金及爲替料ト共ニ先ツ之ヲ主務者ニ交付シ後ニ爲替証書ヲ受領スヘシ

第百三拾五條 爲替証書ハ其差出人ヨリ受取人ニ送付スヘシ

第三百三十六條 爲替差出人ハ其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルヲ得但爲替料ハ返付セス

第三百三十七條 爲替受取人其爲替証書ニ記載シタル拂渡局ニテ爲替金ヲ受取ルニ不便ナルトキ又爲替差出人其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルニ不便ナルトキハ驛遞局ニ其証書ヲ納付シテ書換ヲ請求シ更ニ爲替金ヲ受取ルニ便ナル局ニ宛テタル証書ヲ受クルヲ得

第三百三十八條 爲替金ノ拂渡及返戻ハ其爲替証書ト引替ニ限ルヘシ但郵便局ニ於テ証人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第三百三十九條 爲替受取人ハ其爲替証書ニ式ノ如ク記名調印スヘシ爲替差出人爲替金ノ返戻ヲ受ルトキ亦同シ

第四百一拾條 爲替報知書ニ記載セル諸件ヲ明瞭ニ答ヘ能ハサルモノハ其爲替金ヲ受取ルヲ得ス

第四百一拾壹條 代人ヲ以テ爲替金ヲ受取ル者ハ其爲替証書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ第三百三十九條ノ手續ヲナスヘシ

第四百一拾貳條 官衙社寺會社ニ宛テタル爲替金ヲ受取ルトキハ其爲替ノ証書ノ裏面ニ官衙社寺會社ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ且之ヲ受取ル所屬人ハ第三百三十九條ノ手續ヲナスヘシ

第四百一拾三條 官衙社寺會社ノ受取ルヘキ爲替金ニシテ其官衙社寺會社ノ名稱ヲ附記シ其所屬人ニ宛テタルトキ宛名人自ラ受取ル能ハス又第四百一拾壹條ニ依ル能ハサルトキハ第四百一拾貳條ニ依ルヲ得

第四百一拾四條 官衙社寺會社若クハ其所屬人ノ名ヲ以テ差出シタル爲替金ノ返戻ヲ受クルトキモ第四百一拾貳條第四百一拾三條ノ手續ニ依ルヘシ

第四百四拾五條 爲替証書ノ効用ハ其証書ノ日附ヨリ百二十日ヲ限トス

第四百四拾六條 効用ヲ失ヒタル爲替証書ハ差出人又ハ受取人ヨリ驛遞局ニ納付シ其書換ヲ請求スヘシ

第四百四拾七條 爲替証書ノ効用ヲ失ヒタル日ヨリ二ケ年以内ニ其書換ヲ請求セサルトキハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ其公告ノ日ヨリ三ケ年内ニ爲替証書ノ書換ヲ請求スルトキハ其爲替金十分ノ一ヲ手数料トシテ徴収スヘシ

其公告ノ日ヨリ三ケ年ヲ過ルモ尙ホ其爲替証書ノ書換ヲ請求セサルトキハ其爲替金ヲ沒入スヘシ

第四百四拾八條 爲替証書ヲ失ヒタルトキ又ハ汚損毀損シ判明ナラサルトキハ差出人ニ於テ証人ヲ立テ驛遞局ニ其事由ヲ証明シ更ニ再度ノ証書ヲ請求スヘシ

第四百四拾九條 爲替金ヲ返戻シ又ハ証書ヲ書換ヘ或ハ再度ノ証書ヲ交付スルハ其原証書ニ對スル報知書ヲ取戻シタル後ニ限ルヘシ

第四百五拾條 爲替証書ノ書換又ハ再度ノ証書ヲ請求スルトキハ更ニ相當ノ爲替料ヲ納ムヘシ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ更ニ爲替料ヲ納ムルニ及ハス

爲替証書ノ書換及再度ノ証書ヲ同時ニ請求スルモ兩様ノ爲替料ヲ納ムルニ及ハス

第四百五拾壹條 再度ノ爲替証書ヲ受領セシ後前キニ失ヒタル爲替証書ヲ見出シタルトキハ之ヲ驛遞局ニ納付スヘシ

第四百五拾貳條 爲替資金ノ都合ニ因リ爲替金ノ渡方順延スルコトアルヘシ

第四百五拾三條 爲替証書又ハ報知書ニ失誤アルカ或ハ其報知書

未達ノトキハ爲替金ノ拂渡ヲ延引スヘシ

第百五拾四條 爲替金ノ受渡ニ属スル証書ハ証券印稅ヲ納ムル  
コ及ハス

第百五拾五條 郵便爲替ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ  
驛遞局ハ之ヲ償フノ責ニ任セス

第百五拾六條 此章ノ規則ニ從ヒ爲替金ヲ渡シタル後ハ其渡方  
ニ就キ異議ヲ唱フルモ驛遞局ハ其責ニ任セス

第拾三章 驛遞局貯金

第百五拾七條 驛遞局貯金ハ驛遞總官ノ指定スル貯金預所ニ於  
テ取扱フモノトス

第百五拾八條 貯金預所ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

第百五拾九條 一人一度ノ預ケ金額ハ拾錢以上トシ端數ハ厘位  
ヲ限リトス

一日ノ預ケ金額ハ五拾圓以下トス

第百六拾條 一度ニ五拾圓以上ヲ預ケントスルモノハ其都度貯  
金預所ニ設ケアル願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ驛遞總官ノ  
認可ヲ請フヘシ

第百六拾壹條 貯金コハ利子ヲ付ス其利子ノ割合ハ驛遞總官之  
ヲ定メ新聞紙ヲ以テ公告シ且貯金預所ニ揭示スヘシ

但拾錢未滿ノ端金ニハ利子ヲ付セス

第百六拾貳條 貯金ヨリ生シタル利子ハ毎年六月十二月ニ於テ  
之ヲ元金ニ加ヘ驛遞局ノ原簿ニ登記スヘシ

第百六拾三條 貯金ハ預リタル月ト拂戻ス月ハ利子ヲ付セス但  
驛遞局ヨリ拂戻証書ヲ發シタル月ヲ以テ拂戻月トナスヘシ

第百六拾四條 貯金ヲ拂戻ストキ厘位未滿ノ端數ハ切捨ツヘシ  
第百六拾五條 始テ預ケ金ヲナスモノハ貯金預所ニ設ケアル預



ク願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ之ヲ其貯金預所ニ出スヘシ  
但印判ヲ所持セサルモノハ引受人ヲ立ツヘシ

第百六拾六條 貯金預ケ人ハ貯金預所ニ於テ貯金通帳ヲ受領シ  
其表紙ニ式ノ如ク記載調印シ此通帳ヲ預ケ金ヲ爲ス毎ニ預ケ  
金ト共ニ貯金預所ノ主務者ニ交付シ預ケ金ノ記入ヲ受ケ其通  
帳ヲ所持スヘシ

第百六拾七條 貯金通帳ハ預ケ金受授ノ証トナスヘシ

第百六拾八條 貯金預所ニ於テ預ケ金ヲ受取ルトキハ通帳ニ其  
金額及年月日ヲ記入シ貯金預所ノ印ヲ捺シ且主務者記名調印  
スヘシ

第百六拾九條 一ノ貯金預所ヨリ受領シタル通帳ヲ以テ何レノ  
貯金預所ニモ預ケ金ヲナスヲ得

第百七拾條 既ニ貯金通帳ヲ受領シ所持セルモノハ何レノ貯金

預所ニ於テモ別ノ通帳ヲ受領スルヲ得ス

第百七拾壹條 貯金通帳金額記載ノ部餘白ナキニ至リ更ニ通帳  
ヲ要スルトキハ驛遞局ニ其通帳ヲ差出シ再度ノ通帳ヲ請求ス  
ヘシ

第百七拾貳條 貯金預ケ人ハ滿六ヶ月毎ニ驛遞局ニ貯金通帳ヲ  
差出シ原簿照合及利子記入ヲ受クヘシ

第百七拾三條 預ケ金ヲナストキハ驛遞局ノ原簿ニ登記シ且貯  
金領收通知書ヲ其預ケ人ニ送達スヘシ

第百七拾四條 貯金預ケ人ハ預ケ金ヲナシタル日ヨリ左ノ期日  
内ニ貯金領收通知書到達セサルトキハ其期日ヨリ十五日内又  
到達スルモ記載ノ金額并年月日ニ相違アルトキハ到達ノ日ヨ  
リ十五日内ニ驛遞總官ニ宛テ其申告書ヲ出スヘシ但申告書ハ  
郵便局ニ出シ其受取証書ヲ受領スヘシ

一東京

十日

一東京ヨリ百里未満

三十日

一東京ヨリ百里以外

六十日

第七拾五條 第七拾四條ノ申告書ヲ出サ、ルトキハ其預ケ金額驛遞局ノ原簿ニ登記ナキカ或ハ原簿登記ノ金額年月日ト其預ケタル金額年月日ト符合セサルモ驛遞局ハ原簿ニ登記シタルモノ、外其責ニ任セズ

第七拾六條 貯金預ケ人ハ何レノ貯金預所ニ於テモ其貯金全額若クハ幾分ノ拂戻ヲ請求スルヲ得但未タ元金ニ加ヘサル利子ハ貯金ノ全額ヲ拂戻ストキニアラサレハ之ヲ受取ルヲ得ス  
第七拾七條 貯金拂戻願人ハ貯金預所ニ設ケアル拂戻願書用紙ニ金額其他式ノ如ク記載調印シ通帳ヲ添ヘ貯金預所ヲ經由シテ驛遞局ニ出スヘシ但貯金預所ヨリノ通帳受取證書ヲ受領

スヘシ

第七拾八條 第七拾七條ノ拂戻願書及通帳ヲ驛遞局ニ於テ領収シタルトキハ貯金拂戻願人ニ送達スヘシ

第七拾九條 貯金ノ全額ヲ拂戻ストキハ通帳ヲ返付セス又其幾分ヲ拂戻ストキハ驛遞局ニ於テ其通帳ニ拂戻金額及年月日ヲ記載シ官印ヲ捺シ且主務者調印シ貯金預リ所ヲ經テ之ヲ返付スヘシ

第八拾條 貯金拂戻願人ハ拂戻證書ニ式ノ如ク記名調印シ貯金預所ニ交付シ拂戻金ヲ受取ルヘシ

第八拾壹條 代人ヲ以テ拂戻金ヲ受取ルモノハ拂戻證書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ第八拾條ノ手續ヲナスヘシ

第八拾貳條 拂戻金ハ其拂戻證書ノ日附ヨリ左ノ期日內ニ受

郵便條例

取ルヘシ期日ヲ失スルトキハ更ニ驛遞局ニ其証書ノ書換ヲ請  
求スヘシ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ此限ニア  
ラス

一東京

十五日

一東京ヨリ百里未滿

廿五日

一東京ヨリ百里以外

四十日

第百八拾三條 貯金預ケ人死亡シタルトキハ其相續人ニ於テ証  
人ヲ立テ相續人タルヲ證スル書面ヲ出シ且其相續人ハ第百七  
拾七條ノ手續ヲナシ貯金拂戻ヲ請求スヘシ

第百八拾四條 預ケ金ヲナストキ引受人ヲ立ツルモノハ預ケ願  
書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ氏名ヲ記シ其引受人亦  
記名調印スヘシ

第百八拾五條 社寺會社ノ名ヲ以テ預ケ金ヲナストキハ預ケ願

書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ社寺會社ハ名稱ヲ記シ  
其印ヲ捺シ且擔當者一名記名調印スヘシ

第百八拾六條 二人以上共同シテ預ケ金ヲナストキハ預ケ願書  
及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ其總代人一名調印シ且共  
同者中ノ一名記名加印スヘシ

第百八拾七條 社寺會社及共同ノ貯金ハ其社寺會社若クハ其總  
代人ヲ以テ一個ノ預ケ人ト看做スヘシ

第百八拾八條 貯金預ケ人氏名變換改印轉籍轉住スルトキハ其  
届書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百八拾九條 貯金預ケ人ノ引受人社寺會社ノ貯金擔當者共同  
貯金ノ加印者氏名變換改印轉籍轉住スルキハ貯金預ケ人連印  
引受人アル貯金預ケノ届書ヲ驛遞局ニ出スヘシ  
人ハ氏名ノニ連記

第百九拾條 貯金預ケ人ノ引受人社寺會社ノ貯金擔當者共同貯

金ノ加印者變更アルトキハ後任者及貯金預ケ人連印引受人アケ人ハ氏名ノ届書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百九拾壹條 共同貯金ノ総代人ヲ變更セントスルトキハ前任後任ノ総代及加印者連印ノ願書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

但前任ノ総代人連印スル能ハサルトキハ証人ヲ立ツヘシ

第百九拾貳條 貯金預ケ人其引受人ヲ解カントスルトキハ印鑑ヲ添ヘ其引受人連印ノ届書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百九拾三條 貯金通帳ヲ失ヒタルトキハ速ニ其届書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百九拾四條 貯金通帳又ハ貯金拂戻証書ヲ失ヒタルトキ或ハ汚斑毀損シテ判明ナラサルトキハ証人ヲ立テ驛遞局ニ其事由ヲ証明シ再度ノ通帳又ハ拂戻証書ヲ請求スヘシ

第百九拾五條 貯金通帳ヲ失ヒタルトキハ再度ノ通帳ヲ發シタル日ヨリ九十日間其貯金ノ拂戻ヲ請求スルヲ得ス

第百九拾六條 再度ノ貯金通帳ヲ受領セシ後前キニ失ヒタル通帳ヲ見出シタルトキハ舊通帳ヲ驛遞局ニ納付スヘシ

第百九拾七條 驛遞局ニ貯金通帳ヲ差出シ又ハ再度ノ通帳或ハ貯金拂戻ヲ請求シタル場合ニ於テ第百七拾四條ニ記載シタル期日内ニ通帳返付ナキカ又ハ再度ノ通帳或ハ拂戻証書到達セサルトキハ驛遞総官ニ宛テ其申告書ヲ出スヘシ

第百九拾八條 貯金通帳ハ賣買讓與又ハ書入質入スルヲ許サス

第百九拾九條 驛遞局又ハ貯金預所ニテ証人ヲ要スルトキハ貯金預ケ人之ヲ拒ムヘカラス

第貳百條 貯金ノ受渡ニ属スル証書ハ証券印稅ヲ納ムルニ及ハス

驛遞局ハ之ヲ償フノ責ニ任セス

第貳百貳條 此章ノ規則ニ從ヒ貯金ヲ拂戻シタル後ハ其拂戻方ニ就キ異議ヲ唱フルモ驛遞局ハ其責ニ任セス

第拾四章 外國郵便

第貳百三條 凡外國ニ差立ル郵便物別テ五項ト爲ス

- 一 書狀
- 二 郵便葉書
- 三 書籍、各種ノ印刷物、寫眞、畫圖
- 四 詞訟上及商用上ノ書類
- 五 商品ノ見本

第貳百四條 何品ヲ問ハス此章ノ規則ニ抵觸セサルモノハ第一項郵便物トナスヲ得

第貳百五條 第三項第四項第五項郵便物ハ封緘セサルモノトス

之ヲ封緘スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

第貳百六條 第三項第四項第五項郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

第貳百七條 第三項第四項第五項郵便物ヲ第一項郵便物ト合裝スルトキハ總テ第一項郵便物トナスヘシ

第貳百八條 第三項第四項郵便物ハ一個ノ重量ニ「キログラム」凡五百三十拾貳ニ超過スヘカラス又四分零六毛

第貳百九條 第五項郵便物ノ大サハ長二十「サンチメートル」凡尺六寸六凡三寸三厚五「サンチメートル」分六厘 幅十「サンチメートル」分三厘 凡六拾六又ニ超過スヘ凡壹寸六 又其重量ハ二百五十「グラム」五分五厘

カラス

第貳百拾條 第三項第四項第五項郵便物ヲ合裝スルトキ其重量

ハ第貳百八條ノ制限ニ超過スヘカラス但第五項郵便物ノ大サ及重量ハ第貳百九條ニ據ルヘシ

第貳百拾壹條 第二項郵便物ハ萬國聯合端書ヲ用ユヘシ

第貳百拾貳條 第二項郵便物第五條ニ記載シタル所爲アルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第貳百拾三條 第五項郵便物ハ賣價ヲ付セサルモノニ限ルヘシ  
第貳百拾四條 左ニ記載スルモノハ外國ニ差立ル郵便物トナス

ヘカラス

一 貨幣又ハ高價ノ物品

一 關稅ヲ拂フヘキ物品

一 第拾六條第一項第二項及第三項ニ記載シタルモノ

第貳百拾五條 郵便聯約國ニ差立ル第三項第四項第五項郵便物ハ少シモ其郵便稅ノ一部分ヲ前納シタルモノニ限ルヘシ

第貳百拾六條 郵便聯約國外ニ差立ル郵便物ハ總テ郵便稅完納ニ限ルヘシ但到達地ニ於テ課スヘキ郵便稅ハ此限ニアラス

第貳百拾七條 第貳百八條第貳百九條第貳百拾條第貳百拾三條

第貳百拾五條第貳百拾六條ニ背戻スル郵便物ハ差出人ニ還付シ未納稅又ハ不足稅ハ第拾七條ノ割合ニ從ヒ其額ノ二倍ヲ徴収スヘシ

第貳百拾八條 書留郵便物ハ郵便稅書留手数料トモ前納ニ限ルヘシ

第貳百拾九條 郵便聯約國ニ差立ル書留郵便物ハ受取人ノ受取証書返送ヲ望ムヲ得之ヲ望ムトキハ郵便稅書留手数料ノ外増手数料ヲ前納スヘシ

第貳百貳拾條 郵便稅書留手数料及増手数料ハ日本國郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

郵便條例

第貳百貳拾壹條 郵便稅書留手數料増手數料ノ割合郵便物ヲ差立テ得ヘキ國名及郵便爲替小包郵便ニ關スル事項ハ驛遞總官公告スヘシ

第貳百貳拾貳條 書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル國ニ差立ル書留郵便物ヲ内國又ハ同上約定アル外國ニテ遞送中紛失シタルトキハ天災ニ因ルモノ、外之ヲ紛失シタル國ノ驛遞局ニ於テ差出人又ハ差出人ノ望ニ依リ受取人ニ五十「フランク」一「凡金貨貳拾錢」若クハ他ノ貨幣ニテ同額ノ償金ヲ拂フヘシ

書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル外國ヨリ内國ニ到達スル書留郵便物ヲ内國遞送中紛失シタルモ亦同シ  
第貳百貳拾三條 軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡内國ヲ發シ外國ニ航スル船舶ノ所有主若クハ其代理者ハ驛遞局又ハ郵便局

ヨリ左ニ記載シタル運送償額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス  
一第壹項郵便物ハ一個貳錢ニ超過セサル額  
一第貳項以下ノ郵便物ハ一個壹錢ニ超過セサル額  
第貳百貳拾四條 第貳拾六條第三拾貳條第三拾三條第三拾四條第三拾五條第三拾六條第三拾七條ノ規則ハ此章ノ郵便葉書ニ亦適用スヘシ

第貳百貳拾五條 第拾貳條第拾九條第貳拾條第貳拾壹條第一項第三項第貳拾貳條第貳拾五條第四拾四條第四拾八條第五拾壹條第五拾九條第六拾壹條第六拾三條第六拾四條第六拾六條第貳百貳拾貳條ノ第六拾九條第七拾條第七拾壹條第七拾貳條第七拾三條第百條及第拾壹章ノ規則ハ内國ヨリ外國ニ差立ル郵便物ニ亦適用スヘシ

第貳百貳拾六條 第貳拾壹條第一項第二項第貳拾五條第拾四條第拾九條第拾壹條第拾三條第拾五條第拾四條第拾五條第拾六條第拾七條第拾八條第拾九條第百條第百壹條第百四條第百貳拾貳項及第八項ノ規則ハ外國ヨリ内國ニ到達スル郵便物ニ亦適用スヘシ

第拾五章 罰則

第貳百貳拾七條 第拾六條第三拾三條第三拾四條第拾九條第七拾條第貳百拾四條ヲ犯シタルモノハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第貳百貳拾八條 第五拾四條第六拾三條第六拾四條ヲ犯シタルモノハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス  
第貳百貳拾九條 第五拾七條第五拾八條ヲ犯シタルモノハ貳圓

以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第貳百三拾條 第六拾七條ヲ犯シタルモノハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

遞送配達ヲ以テ營業トナスモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第貳百三拾壹條 第六拾八條第貳百貳拾三條ヲ犯シタルモノハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第貳百三拾貳條 懈怠故意ヲ問ハス第七拾壹條第七拾貳條ヲ犯シタルモノハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第貳百三拾三條 郵便封皮葉書帶紙ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタルモノハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第貳百三拾四條 巳レニ屬セサル郵便物ヲ開封シ或ハ毀損汚穢



シ或ハ私用賣却抑留隱匿拋棄シ若クハ之ヲ受取人ニアラサル  
モノニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ受テ又ハ寄藏故買シ若クハ牙  
保ヲナシタルモノハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以  
上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シタルトキハ官吏傭人約定人ヲ  
論セス本刑ニ一等ヲ加フ

第貳百三拾五條 郵便事務ヲ奉スルモノ自己若クハ他人ノ爲メ  
コスルヲ問ハス郵便物ヲ不當ノ方位ニ遞送シタルトキハ第貳  
百三拾四條第一項ノ刑ニ一等ヲ加フ

第貳百三拾六條 疎虞懈怠ニ因テ郵便物ヲ失ヒタルモノハ五錢  
以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

書留郵便ニ係ルトキハ貳圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス  
第貳百三拾七條 有稅ヲ以テ免稅トシ其他詐偽ヲ以テ郵便稅ヲ

免シタルモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五  
拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シ又ハ情ヲ知テ其郵便物ヲ遞送  
配達シ或ハ自己ノ受ケタル郵便物未納稅又ハ不足稅ヲ免レタ  
ルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第貳百三拾八條 不良ノ事ヲ行ハンカ爲メ郵便ヲ用ヒタルモノ  
ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ  
罰金ヲ附加ス

行フ處不良ノ罪重キモノハ重キニ從テ論ス

第貳百三拾九條 驛遞總官ノ認可ヲ得スシテ郵便物ニ驛遞局認  
可ノ文字ヲ用ヒタルモノハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス  
郵便物運送ニ使用セサル船車ニ郵便ノ記章又ハ郵便ノ文字ヲ  
用ヒタルモノ亦同シ

第貳百四拾條 未納稅又ハ不足稅及ヒ別配達料船料貨幣遞送  
配達賃私書函貸與料ヲ五日內ニ納メサルモノハ貳圓以上貳拾  
圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便事務ヲ奉スルモノ徵收スヘキ郵便稅別配達料船料貨幣  
遞送配達賃私書函貸與料ヲ徵收セサルトキ亦同シ

第貳百四拾壹條 郵便事務ヲ奉スルモノ郵便物ニ貼用セル郵便  
切手ヲ剝取ルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以  
上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其未タ消印チナサ、ル切手ヲ剝取ルモノハ刑法竊盜ノ本條ニ  
照シテ處斷ス

第貳百四拾貳條 郵便爲替事務ヲ奉スルモノ郵便爲替金及爲替  
料ヲ領收セスシテ爲替証書ヲ振出シ又ハ爲替証書ヲ受取ラス  
シテ爲替金ヲ渡シタルトキハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處

シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

驛遞局貯金ノ事務ヲ奉スルモノ預リ金ヲ領收セスシテ貯金通  
帳ニ預ケ金ノ記入チナシ又ハ拂戻證書ヲ受取ラスシテ貯金ヲ  
拂渡シタルトキ亦同シ

第貳百四拾三條 郵便事務ヲ奉スルモノ諸般ノ計數ヲ偽ルトキ  
ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰  
金ヲ附加ス

第貳百四拾四條 郵便物ニ押用セル印面ヲ變換シタルモノハ貳  
圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第貳百四拾五條 郵便配達人配達先ニ於テ謝儀ヲ要求シタルト  
キハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第貳百四拾六條 郵便函郵便行囊其他郵便ノ器械ヲ毀損汚穢シ  
タルモノハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓

以下ノ罰金ヲ附加ス

第貳百四拾七條 渡船人郵便物ノ渡津ヲ怠慢遲緩シタルトキハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第貳百四拾八條 第貳百三拾三條第貳百三拾七條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第貳百四拾九條 第貳百三拾條第貳百三拾三條第貳百三拾七條第貳百四拾壹條第貳百四拾貳條第貳百四拾三條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スルモノハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第貳百五拾條 本章罰則ノ外刑法ニ正條アル者ハ刑法ニ據テ處斷ス

第拾三章 電信條例

○明治十八年五月七日第八號布告

電信條例別冊ノ通改定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

電信條例

第一章 電報

第壹條 凡電報別テ三種ト爲ス

- 一 官報
- 二 局報
- 三 私報

第貳條 官報局報私報各別テ七類ト爲ス

- 一 通常電報
- 二 至急電報
- 三 追尾電報

電信條例

四 同文電報

五 照校電報

六 受信電報

七 返信料前納電報

第三條 電報ヲ傳送スルノ順序ハ官報ヲ先トシ局報之ニ次キ私報又之ニ次クモノトス

第四條 電信局長ニ於テ法律規則ニ違背シ又ハ治安ヲ妨害シ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル私報ハ其傳送ヲ止ムヘシ

第五條 政府ハ時機ニ依リ線路又ハ地方又ハ語辭ヲ限リ私報ヲ停止スルコトアルヘシ

第二章 電報書法

第六條 凡電報ヲ書載スルニハ普通辭又ハ秘辭隱語ヲ問ハス和文ハ片假名及數字ヲ用ヒ歐文ハ羅馬字及亞刺比亞數字ヲ用フ

ヘシ

第七條 電信局長ニ於テ私報ニ用フル秘辭隱語ノ解釋又ハ其合符原本ヲ要スルトキハ之ヲ差出スヘシ

第三章 電信料

第八條 凡電報料ハ國內ヲ通シテ同一ト爲ス但一市内及壹岐對馬ニ發着スルモノハ此限ニアラス

第九條 電報料及手数料ノ金額ハ別ニ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 電報料及手数料ハ電信切手ヲ以テ納ムルモノトス其切手ハ賴信紙ニ貼付スヘシ但返信電報料ノ前納及尋問電報料ノ假納ハ貼付スルノ限ニアラス

第十一條 電信中央局及分局並電信切手賣下所ノ設ケアラサル地ヨリ郵便ニ付シテ電報ヲ發出スルトキハ郵便切手ヲ以テ電信切手ニ代用スルコトヲ得其郵便切手ハ賴信紙ニ貼付セサル

モノトス

第拾貳條 電報料及手数料ニ用ヒタル電信切手ハ電信中央局及分局ニ於テ消印スヘシ

第拾三條 電報料及手数料ハ過納アルモ己ニ電信切手ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セス  
未ダ傳送セサル電報ヲ返還スルトキ己ニ消印シタルモノ亦同シ

第拾四條 第四條ニ據リ私報ノ傳送ヲ止ムルトキハ其既ニ納メタル料金ヲ還付セス

第拾五條 電報取扱ノ過失ニ因テ甚シク遅延シ若クハ到達セサルモノハ其料金ヲ還付ス照校電報ニシテ傳送ノ際誤謬ヲ生シテ其用辨ヲ闕キタルユト判然タルモノ亦同シ

第拾六條 料金還付ノ請求ハ發信ノ日附ヨリ六十日以内ニ電信

局長ニ申出ヘシ此期限ヲ過クルトキハ一切之ヲ受理セス

第拾七條 電報料及手数料ニ不足アルトキハ電信中央局及分局ニ於テ其電報ヲ傳送スルモ其不足ノ料金ニ倍ヲ發信人ヨリ追納セシムヘシ

第拾八條 發信人又ハ受信人ヨリ納ムヘキ料金ヲ七日以内ニ徵収シ難キトキハ發信人ノ納メサルモノハ受信人ヨリ受信人ノ納メサルモノハ發信人ヨリ徵収スヘシ

#### 第四章 電信切手

第拾九條 電信切手ハ日本政府ニ於テ發行セシモノタルヘシ

第貳拾條 電信切手ハ電報料及手数料納濟ノ証トナスモノトス  
第貳拾壹條 電信切手ヲ賣ル者ハ電信局長ノ免許ヲ受ケ電信切手賣下所ノ標札ヲ掲クヘシ

第貳拾貳條 電信切手ハ電信中央局及分局並電信切手賣下所ノ

外ニ於テ賣買スヘカラス

第貳拾三條 電信切手ハ其額面ヨリ低價ヲ以テ賣ルヘカラス

第貳拾四條 返信電報料ノ前納及尋問電報料ノ假納ニ充ツル電信切手並電信切手ニ代用スル郵便切手ヲ賴信紙ニ貼付シタルモノハ各其効用ヲ失フ

第貳拾五條 電信切手ノ汚斑毀損又ハ不明瞭ナルモノハ其効用ヲ失フ但其未タ使用セサルモノニ限り二人以上ノ証人ヲ立テ其原由ヲ証明シタルトキハ電信中央局及工部卿ノ告示ヲ以テ定メタル分局ニ於テ定價十分二減ニテ買戻スヘシ

第貳拾六條 電信中央局及工部卿ノ告示ヲ以テ定メタル分局ニ於テハ四枚以上連續シタル電信切手ヲ其所持人ノ請求ニ依リ定價十分一減ニテ買戻スヘシ

### 第五章 電報發送

第貳拾七條 電報ノ傳送ハ電信中央局及分局ニ於テ之ヲ管スルモノトス

第貳拾八條 電信中央局及分局ノ廢置並開局時間ハ工部卿之ヲ告示スヘシ

第貳拾九條 電報ヲ依托スル時間ハ開局時間ニ限ルヘシ但至急官報ハ此限ニアラス

第三拾條 發信人ノ請求アルニ非カレハ電報ノ受取證書ヲ交付セス之ヲ請求スルキハ其手数料ヲ納ムヘシ

第三拾壹條 官報ハ官廳又ハ官使ノ印ヲ押捺スヘキモノトス但官報タルノ確證アルトキハ此限ニアラス

第三拾貳條 官報ノ原信ヲ證據トシテ差出ストキハ其返信ヲ官報トシテ發送スルコトヲ得

第三拾三條 電信中央局及分局ニ於テ私報ノ發信人タルノ證據

ヲ要スルトキ其發信人ハ賴信紙ノ端末ニ署名捺印スヘシ

第三拾四條 電報ハ其宛名ノ家又ハ本人ニ之ヲ配達スヘシ但受取ルヘキ人名ノ指定アルモノハ此限ニアラス

第三拾五條 電報ヲ受取タル者ハ電報受取紙ニ時刻ヲ記入シ記名ノ下ニ捺印シ直ニ之ヲ配達人ニ交付スヘシ

第三拾六條 宛名ノ家又ハ本人ニ屬セサル電報ノ配達ヲ受取タル者ハ其由ヲ附箋シ直ニ之ヲ着信局ニ返付スヘシ

其電報ヲ誤テ開封シタル者ハ更ニ封緘シ其事由ヲ副書スヘシ

第三拾七條 電信中央局及分局ヨリ一里ヲ超ヘサル地ニ配達スル電報ハ手数料ヲ要セス但別使配達島嶼配達船配達ハ此限ニアラス

第三拾八條 電信中央局及分局ヨリ一里ヲ超ヘタル地ニ配達スル電報ニシテ發信人ヨリ其配達方ヲ指定セサルモノハ先拂郵

便ヲ以テ遞送スヘシ

第三拾九條 郵便ニテ遞送スル電報ハ其郵便稅ヲ納ムヘシ

別使又ハ船船ヲ以テ配達スル電報ハ手数料ヲ納メ島嶼ニ配達スル電報ハ實費ヲ納ムヘシ

第四拾條 受信人ニ配達シ能ハサル電報ハ着信局ニ留置キ本人或ハ其委任ヲ受ケタル代人ヨリ請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ若シ着信ノ日ヨリ六十日以内ニ請求スル者アラサルトキハ之ヲ沒書トナスヘシ

第四拾壹條 未タ傳送セサル電報ハ其發信人タルノ証據ヲ以テ返還ヲ請求スルトキハ之ヲ還付スルコトアルヘシ

第四拾貳條 電報ノ傳送ヨリ生シタル損失又ハ異議アルモ電信局ハ一切其責ニ任セス

第六章 尋問改正

第四拾三條

受信人電報ノ字句ニ疑惑アリテ尋問ヲ要スルトキハ其電報ヲ受取リタル時ヨリ二十四時以内ニ之ヲ請求スルコトヲ得但其料金ヲ假納スヘシ

電信中央局及分局ニ於テハ其請求ニ應シ電報ヲ校正シ通信上ニ誤謬ナキトキハ假納ノ料金ヲ收入シ若シ誤謬アルトキハ之ヲ還付スヘシ

第四拾四條

發信人電報ノ字句ニ改正ヲ要スルトキハ其電報ヲ依托シタル時ヨリ七十二時以内ニ之ヲ請求スルコトヲ得但發信人タルノ證據ヲ差出スヘシ

第七章 閱覽正寫

第四拾五條

發信人又ハ受信人ハ電報發着ノ日ヨリ三十日以内ニ本人又ハ其代人タルノ證據ヲ以テ發着局ニアル原信ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得又其原信ニ相違ナキノ証印アル正寫ヲ請

求スルコトヲ得其期限ヲ過キタルトキハ更ニ六十日以内ニ之ヲ電信局ニ請求スルコトヲ得此期限ヲ過クルトキハ一切之ヲ許サス

原信ノ正寫ヲ請求スルトキハ其手数料ヲ納ムヘシ

第八章 電機私設

第四拾六條

凡電氣ノ機器ヲ以テ通信傳話及號報ヲナサントスル者ハ工部卿ニ願出ヘシ

第四拾七條

私設ノ電線ハ官設ノ電線アラサル地ニ於テ一人又ハ兩人ノ用ニ供スルモノニ限り許可スルモノトス但傳話又ハ鐵道ノ用ニ供スルモノハ官設ノ電線アル地ニ於テモ許可スルコトアルヘシ

第四拾八條

電線私設ノ許可ヲ得タル者ハ電信局ニ於テ定メタル規約ニ從フヘシ



第四拾九條 私設ノ電線ハ最寄電信分局ニ連續設置スヘシ但傳  
話又ハ鐵道ノ用ニ供スルモノハ此限ニアラス

第五拾條 私設ノ電線ハ他人ノ電報ヲ傳送スルコトヲ許サス  
第九章 海外電報

第五拾壹條 海外電報ハ同盟諸國ノ會議ヲ以テ定ムル所ノ萬國  
條約書ニ據リテ取扱フヘシ

第拾章 罰則

第五拾貳條 第七條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金  
ニ處ス

第五拾三條 第貳拾貳條第貳拾三條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上五  
拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五拾四條 第三拾五條第三拾六條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳  
拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五拾五條 第四拾六條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰  
金ニ處シ其機器ヲ沒收ス

第五拾六條 第四拾八條第四拾九條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上百  
圓以下ノ罰金ニ處シ其情狀ニ依リ電線私設ヲ禁止ス

第五拾七條 第五拾條ヲ犯シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁  
錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加シ其機器ヲ沒收ス

第五拾八條 電線ヲ切斷セスト雖モ電氣ヲ吸引シ易キ物ヲ纏繞  
シテ不通ニ致シ若クハ其効力ヲ妨害シタル者ハ三月以上三年  
以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五拾九條 疎虞懈怠ニ因リ電信ノ器械柱木條線ヲ損壞切斷シ  
テ電氣ヲ不通ニ致シ或ハ其効力ヲ妨害シタル者ハ貳圓以上拾  
圓以下ノ罰金ニ處ス其水底電信線ニ係ルトキハ五圓以上五拾  
圓以下ノ罰金ニ處ス

電信條例

第六拾條 電信ノ柱木條線ニ紙鳶ヲ懸ケ若クハ瓦礫其他ノ雜物ヲ擲キ又ハ柱木及測量標木ニ獸畜ヲ繫キ若クハ貼紙シ戲書シ又ハ柱木ノ記號及測量標木ヲ毀棄汚穢シタル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第六拾壹條 政府ノ指定シタル水底電信線路内ニ於テ艦船ヲ繫泊シ又ハ漁業採藻ヲ爲シ土砂ヲ掘鑿シ又ハ電信線ノ號標ニ舟筏ヲ繫キ又ハ其號標ヲ毀棄シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

政府ノ指定シタル電信船ノ號標距離内ニ於テ前項ノ所爲ヲ行ヒ又ハ航行シタル者亦同シ

第六拾貳條 偽計又ハ威力ヲ以テ電報ノ傳送配達及架線其他ノ工事ヲ妨害シ若クハ之ヲ阻止シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六拾三條 已レニ屬セサル電報ヲ開封シ若クハ私用シ或ハ毀棄汚穢抑留隱匿シ若クハ受取人ニ非サル者ニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ收受シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六拾四條 電信切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六拾五條 已ニ貼用シタル電信切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六拾六條 電信事務ヲ奉スル者前數條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ

第六拾七條 電信局長ノ許可ヲ得スシテ通信室ニ入リタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス之レヲ入レタル者ハ一等ヲ

加フ

第六拾八條 電信事務ヲ奉スル者私報ノ旨意ヲ漏泄シタルトキハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス但法律規則ニ從ヒ開披説明スルハ此限ニアラス官報及局報ノ旨意ヲ漏泄シタル者ハ一等ヲ加フ

第六拾九條 電信事務ヲ奉スル者賴信紙ニ貼用シタル切手ヲ剝取タルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其未タ消印ヲナサ、ル切手ヲ剝取タル者ハ刑法竊盜ノ本條ニ照シテ處斷ス

第七拾條 電信事務ヲ奉スル者故ナクシテ通信ノ依托ヲ拒ミタルトキハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七拾壹條 疎虞懈怠ニ因リ電報ヲ遺失シ又ハ傳送配達ヲ延滯

シタル者ハ壹圓以上九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第七拾貳條 配達人謝儀若クハ不當ノ賃錢ヲ要求シタルトキハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第七拾三條 第五拾八條第六拾貳條第六拾四條第六拾五條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七拾四條 第六拾四條第六拾五條第六拾九條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

△明治十八年五月十五日工部省第拾七號告示

電信條例第貳拾五條第貳拾六條ニ依リ電信切手ノ買戻ヲ爲ス可キ分局ハ當分左ノ拾八ヶ所トス

西京電信分局

神戸電信分局

横濱電信分局

電信條例

- |         |        |        |
|---------|--------|--------|
| 長崎電信分局  | 函館電信分局 | 新瀉電信分局 |
| 名古屋電信分局 | 廣島電信分局 | 鹿島電信分局 |
| 德島電信分局  | 高知電信分局 | 松江電信分局 |
| 赤馬關電信分局 | 金澤電信分局 | 秋田電信分局 |
| 仙臺電信分局  | 札幌電信分局 | 根室電信分局 |

第拾四章 鐵道略則

○明治五年五月四日第四百四拾六號布告

第壹條 賃金ノ事

何人ニ不限鐵道ノ列車ニテ旅行セント欲スル者ハ先賃金ヲ拂ヒ手形ヲ受取ル可シ然ラサレハ決シテ列車ニ乗ル可カラス

第貳條 手形檢査及ヒ渡方ノ事

手形檢査ノ節ハ改テ受ケ取集ノ節ハ渡スヘシ若シ檢査ノ節手形ヲ出サス或ハ取集ノ節手形ヲ渡サ、ル者ハ更ニ最初發車ノ「ステーション」トハ列車ノ立場ニテ旅客ノ「ステーション」乗下リ荷物ノ積ミ下ロシチ爲ス所チ云フリノ賃金ヲ拂ハシムヘシ尤途中ヨリ乘來リシ其確証判然タルハ其乘リタル場所ヨリノ賃金ヲ拂ハシムヘシ

第三條 途中「ステーション」ニテ乘組并ニ手形ノ事

途中「ステーション」ニ於テ列車中餘地ノ有無ニ應シテ乘リ組

ムヲ得ヘシ若シ其手形ヲ買取リシ總人數ヲ容ルヘキ餘地ナ  
キ時ハ其中ニテ最遠キ地ニ赴ク手形所持ノ人丈ケ先ツ乗組  
ムヲ得ヘシ若シ又同里程ノ地ニ赴ク客數人アルキハ其手形ノ  
番號ノ順序ヲ以テ乗ルヲ得ヘシ

第四條 偽欺ノ者扱方ノ事

何人ニ限ラス賃金ヲ拂ハス列車ニテ旅行セント計リ或ハ遂ニ  
旅行シ又ハ其拂ヒシ賃金高相當ノ車ニ乗ラスシテ更ニ上等ノ  
車ニ乘リ組ミ又ハ既ニ車ヨリ下ルヘキ場所ヲ過キ増賃金ヲ拂  
ハスシテ遠キ場所ニ至リ遂ニ其賃金ヲ免レント計リ又ハ既ニ  
拂ヒタル賃金ニテ到ルヘキ場所ニ到リナカラ車ヨリ下リ去ル  
ヲ肯セス其外如何ナル仕方ニテモ賃金拂方ヲ逃ントスル者  
ハ夫々法ニ隨テ罰スヘシ

第五條 列車運轉中出入禁止ノ事

總シテ列車ノ運轉中ニ出入スルヲ又ハ車内旅客ノ居ルヘキ場  
所ノ外ニ乗ルヲ禁ス

第六條 痘瘡等ノ病人ヲ禁止スル事

痘瘡及ヒ諸傳染病ヲ煩フ者乗車ヲ禁ス若シ此等ノ病人車中ニ  
在テハ見當リ次第鐵道掛リノ者ヨリ車外并ニ鐵道構外ヘ退去  
セシムヘシ

第七條 吸煙并ニ婦人部屋男子出入禁止ノ事

何人ニ限ラス「ステーション」構内吸煙ヲ禁セシ場所并ニ吸煙  
ヲ禁セシ車内ニテ吸煙スルヲ許サス且婦人ノ爲メニ設アル  
車及ヒ部屋等ニ男子爰リニ立入ルヲ許サス若シ右等ノ禁ヲ犯  
シ掛リノ者ノ戒メヲ用ヒサル者ハ車外并ニ鐵道構外ニ直ニ退  
去セシムヘシ

第八條 醉人及不行狀人扱方ノ事

何人ニ限ラス總シテ列車乗組中又ハ「ステーション」并ニ鐵道構内ニテ酔ニ乗シ妄狀ヲ現ハス者又ハ不良ノ行狀ヲ爲ス者ハ鐵道掛リノ者ヨリ車外及ヒ鐵道構外へ直ニ退去セシムヘシ

第九條 鐵道ニ属スル物品ヲ毀損スル時ノ事

何人ニ限ラス猥リニ「ステーション」其他鐵道構内ニ標識揭示セル書附等ヲ剝シ或ハ破リ又ハ列車ノ番號札ヲ取除キ或ハ車燈ヲ消シ又ハ各車ノ諸器械倉庫建家牆柵其他鐵道一切ノ附屬品ヲ毀損スル者ヲ都テ法ニ隨テ所置スヘシ

第十條 機關車等へ乘込ヲ禁スル事

機關方弁ニ火夫ノ外ハ其筋ノ許シテ得スシテ機關車又ハ炭水車ニ乘リ或ハ乘ラント爲ス可カラス且ツ車長及ヒ車掛リノ者ノ外其筋ノ許ヲ得スシテハ荷物車又ハ旅行ノ爲メニ設ケサル車ニ乘リ又ハ乘ラント爲スヘカラス若シ此禁ヲ犯シ鐵道掛リ

ノ者ノ制止ヲ用ヒサル者ハ直チニ其場ヨリ退去セシムヘシ

第十壹條 鐵道地所へ妄リニ立入者取扱方ノ事

何人ニ限ラス「ステーション」又ハ鐵道構内へ妄リニ立入者ハ鐵道掛ノ者ヨリ即刻構外へ立去ラシムヘシ

第十貳條 旅客ノ荷物紛失毀損取扱ノ事

旅客手廻リ荷物其外所持ノ品タリト總テ之カ爲ニ別段ニ賃金ヲ拂ヒ其請取証書ヲ取置カサレハ若シ紛失毀損等アルトモ政府ニ於テ關係セサルヘシタトヒ賃金ヲ拂ヒ証書ヲ取置トモ其毀損紛失等ヲ償フハ只旅客自用衣服ノミニ止リ且ツ賃金モ五拾圓ヲ過ルコトナシ

第十參條 金高及ヒ大切ノ物品紛失毀損關不關ノ事

金銀貨紙幣郵便切手爲替會社通用券爲替手形約定証書金銀請拂證書地所建家活券諸繪圖書畫古器金銀玉石鍍金及諸彫鐫細

工物時計類其餘衣類或ハ玩佩物ノ粧飾ニ混作ノ品類及ヒ硝子器類陶器漆器酒類蠶繭絹布生熟糸等ノ品物運送方ニ付テハ其品柄并價高等ヲ明白ニ其掛ヘ申立テ増賃金ヲ拂ヒ紛失毀損等請合シ分ノ外總テ政府ニ於テ償ハス

第拾四條 牛馬獸類運送ノ事

牛馬及ヒ其他ノ獸類ヲ運送スルニ其持主或ハ送り人ヨリ其獸類ノ價ヲ運送掛ヘ申出相當ノ増賃金ヲ拂ヒ請合証書ヲ取置クヘシ若シ増賃金ヲ拂ハス請合ヲ爲サル分ハ如何程高價ノ獸類紛失損害アルモ牛一疋金貳拾圓以上馬一疋或ハ乳牛一疋ニ付五拾圓以上羊或ハ豚一疋ニ付金五圓以上ヲ政府ニ於テ償フトナシ

第拾五條 砲發ヲ禁スル事

何人ニ限ラス車内ハ勿論鐵道線及ヒ其他構内ニニ砲發スルヲ

禁ス

第拾六條 爆發質アル危害物運輸ヲ禁スル事

鐵道寮ヨリ追テ公告スルマテハ「火藥及ヒ「ピロロリヤム」「ケロシン、チイル」「トルベシタイ」石炭油 硝性並ニ爆發質燃燒質等ノ物品ハ運輸セサルヘシ

第拾七條 荷物目錄ヲ渡スヘキ事

運送ノ諸荷物ヲ鐵道掛ノ者ヘ引渡シ又ハ受取ノ度毎ニハ右荷主或ハ宰領人ヨリ其品柄數量及ヒ姓名ヲ記シテ掛リノ者ヘ差出スヘシ

第拾八條 物品並ニ畜類損害償方定限ノ事

鐵道ニテ運送スル物品並ニ畜類紛失損害アリモ鐵道掛リノ怠惰疎漏ヨリ起リシニ非レハ政府ニ於テ之ヲ償フイナシ

第拾九條 荷物運送賃金ノ事

何人ニ限ラス荷物運賃ノ催促ヲ受ケ尙ホ拂ハサルハ其荷物ノ全部又ハ部分ヲ留置キ若シ又其荷物既ニ他所ニ運送セシキハ其後同人附属ノ荷物鉄道掛リへ送來ルヲアルキハ之ヲ留置キ同人ニ告知ラセタル上ニテ滞金高程ノ品ヲ入札公賣シ其滞金ト諸入費トヲ引取殘金殘品ヲ同人へ返スヘシ又時宜ニ依リ右ノ取計ヒヲ爲サス法官ニ訴ヘテ賃金並ニ入費等ヲ取立ルヲモアルヘシ

第貳拾條 規則ニ隨ハサル者ノ事

何人ニ限ラス諸事前條ノ規則ニ隨ハスンハ乗車及ヒ荷物ノ運送ヲ許サ、ルヘシ

第貳拾壹條 規則等ノ變革布達ノ事

此規則中變革及加除アルキハ遍ク告達スヘシ  
第貳拾貳條 荷物運送引請方ノ事

諸荷物ノ運送ヲ引請ルヲハ列車中餘地ノ有無ニ應スヘシ

第貳拾三條

此規則ヲ施行スルカ爲メニ夫々法官ニ訴ヘ犯罪人罰シ方等ノ裁判ヲ乞フ手順ハ鉄道頭或ハ鉄道支配人ノ間ニテ其取扱アルヘシ

第貳拾四條

旅客並ニ荷物ノ運賃ハ時宜ニ隨ヒ變革アルト雖モ其變革毎ニハ二週日前ニ告達スヘシ尤鉄道頭鉄道支配方及ヒ運輸頭取ノ間ニ於テ前條ノ如キ告達ナク臨時常例ヨリ下等ノ運賃ヲ以テ別ニ列車ヲ仕立ルヲモアルヘシ

第貳拾五條

此規則來ル五月七日ヨリ施行スヘシ  
右之條々此度確定候事



第一節 鐵道犯罪罰例

○明治六年三月十三日第百壹號布告

(明治十二年三月廿八日第拾貳號布告禁錮ヲ禁獄ニ改正ス故ニ今其改正ニ從ヒ直ニ禁獄ト記ス)

第壹條 鐵道掛ノ者總テ鐵道上ニ關スル事務取扱ヒ中醉ニ乘シ無狀ヲ現ハスニ於テハ貳拾五圓以内ノ罰金ニ處ス若シ其職掌怠惰輕忽ニ依リ鐵道旅客ノ危難トモナルヘキ取扱アル片ハ其事情ニ依リ五百圓以内ノ罰金又ハ三月以内ノ懲役或ハ禁獄ニ處ス

第貳條 (明治十二年三月二十八日第拾貳號布告ヲ以テ左ノ通り改正ス) 規則第四條ニ記スル所ノ不法ヲ爲ス者ハ貳拾五圓以内ノ罰金或ハ三十日以内ノ禁獄ニ處ス

第三條 規則第五條ノ禁ヲ犯ス者ハ拾圓以内ノ罰金ニ處ス

第四條 規則第六條ノ禁ヲ犯ス者ハ拂ヒタル賃金ヲ沒シ貳拾五

圓以内ノ罰金ニ處ス

第五條 規則第七條ノ禁ヲ犯ス者ハ拂ヒタル賃金ヲ沒シ拾圓以上ノ罰金ニ處ス

第六條 規則第八條ニ記スル所行ヲ爲ス者ハ拂ヒタル賃金ヲ沒シ貳拾五圓以内ノ罰金或ハ三十日以内ノ禁獄ニ處ス

第七條 規則第九條ニ記スル所ノ不法ヲ爲ス者ハ五拾圓以内ノ罰金或ハ六週間以内ノ懲役或ハ禁獄ニ處ス

第八條 規則第十條ノ禁ヲ犯ス者ハ貳拾五圓以内ノ罰金ニ處ス

第九條 (明治十二年三月二十八日第拾貳號布告ヲ以テ左ノ通り改正ス) 規則第十壹條ノ禁ヲ犯ス者ハ貳拾五圓以内ノ罰金或ハ三十日以内ノ禁獄ニ處ス

第十條 規則第十伍條ノ禁ヲ犯ス者ハ貳拾五圓以内ノ罰金ニ處ス

第拾壹條 (明治十二年三月二十八日第拾貳號布告ヲ以テ左ノ通  
 リ改正ス)規則第拾七條ニ記スル所ノ諸荷品物書其外ヲ故ラニ  
 出カス或ハ故ラニ欺偽ノ品物書ヲ出ス者ハ三ヶ月以内ノ懲役  
 又ハ禁獄或ハ其品物壹噸千七百斤ヲ云每ニ貳拾五圓以内ノ罰金ニ處  
 ス壹噸以下ハ拾圓以上尤モ一罰ノ贖金高五百圓ニ過キス

第拾貳條 鐵道附屬品ヲ毀損スル者ハ第七條ニ照ラシ罰ヲ科ス  
 ルノ外其毀損物ノ代價ヲ償ハシムルコトアルヘシ但其償金ノ追  
 徴モ鐵道寮ヨリ法官ヘ乞フトキハ法官ニ於テ追徴スヘシ

第拾五章 出版條例

○明治八年九月三日第百三拾五號布告

出版條例

第壹條 圖書ヲ著作シ又ハ外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版セントス  
 ル者ハ出版ノ前ニ內務省ヘ届ケ出ツ可シニ

但シ社則塾則引札ノ類印刷シテ發賣セサル者ハ此例ニアラ  
 ス

第貳條 圖書ヲ著作シ又ハ外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版スルキハ  
 三十年間專賣ノ權ヲ與フヘシ此專賣ノ權ヲ板權ト云フ

但板權ハ願フト願ハサルトハ本人ノ隨意トス故ニ板權ヲ願  
 フ者ハ願書ヲ差出シ免許ヲ請フ可シ其願ハサル者ハ各人一  
 般ニ出版スルヲ許ス

△明治九年五月二日内務省甲第拾四號布達

客歲九月御布告相成候出版條例第貳條但書ニ（其願ハサル者ハ各人一般ニ出版スルヲ許ス）ト有之候得共出版届ノ儀ハ第壹條ノ通出版ノ前必ス當省ヘ可届出儀ト可相心得此旨布達候事

第三條 出版届版權願トモ草稿ヲ添ルコ及ハスト雖モ時トシテハ草稿ヲ徵シ検査スルコアル可シ

第四條 草稿又ハ納本ヲ検査シテ世治ニ害アル者ト認ムルハ其出版又ハ販賣ヲ禁シ或ハ刻板ヲ毀タシムルコアル可シ  
第五條 出版届版權願トモ其所在ノ地方廳本籍又ハ寄留ノ地方廳ヲ經由ス可シ

但シ著譯者出版人其管轄ヲ異ニスル者ハ出版人所在ノ地方廳ヲ經由ス可シ

第六條 圖書ノ特ニ世ニ鴻益アル者ハ版權ノ年限終ルノ後仍ホ

十五年ノ延期ヲ許ルスコアルヘシ

第七條 版權免許ノ爲メニ其年限ヲ記セル證書ヲ附與スヘシ年限終ルノ後ハ各人一般ニ出版スルヲ許ス

第八條 著譯書大部ニシテ卒業數年ニ涉リ編ヲ逐ヒ漸次出版スル者ハ每次ニ版權ヲ與ヘ年限ヲ起算ス可シ

第九條 他人ノ著譯書己ニ版權ヲ有スル者ヲ續成セント欲スル者ハ原主ニ示談ノ上連印ノ願書ヲ出ス可シ其原主死去セル時ハ相續人ヲ以テ原主ト看做ス可シ

第十條 他人ノ著譯書版權ヲ有スルモノヲ校訂シ或ハ節略シ或ハ註解附録繪圖等ヲ加ヘテ出版スル者モ亦原主ノ承諾ヲ得サル可カラス其出願ノ手續ハ前條ニ依ル可シ

第十一條 既ニ版權ヲ有スル自己ノ著譯書ヲ校訂シ或ハ節略シ或ハ註解附録繪圖等ヲ加ヘテ出版スルキハ更ニ願ヒ出ルニ非

サレハ板權ヲ得ヘカラス其製本ノ式ヲ改メ若クハ冊數ヲ分合  
シテ改版スルニ止リ若クハ舊式ニ依テ再刻スル者ハ板權ヲ存  
ス

但シ屆書ヲ出シ製本ヲ納ムルハ各本條ニ依ル可シ

第拾貳條 著譯者死後ニ至リ其相續人遺稿ヲ出版スルコトヲ得  
其版權ヲ願フキハ之ヲ與フ可シ

第拾三條 版權年限未タ終ラサルノ間ハ版主ノ相續人ニ傳フ可  
シ

但シ版權讓受ノ由ヲ相續人ヨリ内務省ヘ屆ケ出ツ可シ

第拾四條 他人ノ著譯書ヲ出版スル者ハ必ス著譯者ノ承諾ヲ得  
可シ版權願書若クハ出版屆書ニハ必ス著譯者ト連印スヘシ

第拾五條 版權ヲ得タル者ハ他人其條章ヲ剽竊スルヲ許サス  
但シ論辨若クハ証明スル爲メニ引用スル者ハ此限ニアラス

第拾六條 同時若クハ前後ニ偶然同様ノ圖書ヲ著譯シ版權ヲ願  
フ者二人以上アル時ハ共ニ版權ヲ與フ可シ其事情明白ナラサ  
ル者ハ事由ヲ検査シテ後之レヲ許シ或ハ許サ、ルヘシ

第拾七條 外國ノ圖書既ニ甲者ノ成譯アリト雖モ乙者又之ヲ譯  
シ甲者ノ誤謬ヲ正シ又ハ闕漏ヲ補ヒ及ヒ其文意ヲシテ一層明  
瞭ナラシムルノ確証アルモノ版權ヲ願ヒ出ル時ハ検査シテ之  
ヲ許シ或ハ許サ、ルヘシ

第拾八條 著譯ノ圖書同名ノ者アリト雖モ文理不同ナルニ於テ  
ハ妨ケナシトス

但シ表題ノ上ニ何某ト記載スヘシ

第拾九條 出版ノ圖書ハ内務省ニ於テ目錄ヲ作り時々公布ス可  
シ

第貳拾條 圖書刻成ノ上ハ製本三部ヲ内務省ヘ納ム可シ其版權

ヲ得ル者ハ外ニ免許料トシテ製本六部ノ定價ヲ納ム可シ  
納本セス及ヒ免許料ヲ出サ、ル前ハ發賣ヲ許サス

但シ出版ノ上毎部定價ノ印ヲ押スヘシ

第貳拾壹條 出版ノ圖書ニハ著譯者ノ住所氏名ヲ記ス著譯者ノ  
氏名ヲ知ルヘカラサル者ハ其由ヲ記ス可シ而シテ何年月日出  
版或ハ何年月日板權免許ト記シ板主ノ住所氏名ヲ記スヘシ氏  
名ヲ記セスシテ別號ヲ記スルコトヲ得ス

板權ヲ相續シ若クハ賣買若クハ分板シタルキハ相續人買主及  
ヒ分板ヲ受ケタル者ノ住所氏名ニ改ムヘシ

第貳拾貳條 版權ノ賣買ハ勝手タル可シ賣買スルキハ双方連印  
シテ其由ヲ内務省ヘ届ケ出ツヘシ

第貳拾三條 版權ヲ分テ讓リ若クハ賣リ同一ノ圖書ヲ各自ニ出  
版スルコト妨ケナシ之ヲ分版ト名ク

但シ双方連印シテ届ケ出ルコト前條ノ如シ

△明治十二年四月廿五日内務省甲第八號布達

出版條例第貳拾三條但書双方連印ノ儀自今甲者所有ノ版權ヲ  
既ニ乙者ニ分版シ後又丙者ニ分版スルキハ甲乙丙者共連印ノ  
上可届出儀ト可相心得此旨布達候事

第貳拾四條 版權ヲ相續シ若クハ賣買シ若クハ分版シ及ヒ改版  
シテ届ケ出サル者ハ其版權ヲ失フ可シ

第貳拾五條 願濟ノ表題ヲ變改シ若クハ納本ノ後ニ新タニ序跋  
ヲ加フル者ハ其趣ヲ届出テ更ニ納本ス可シ若シ届出テヌ又ハ  
納本セサル者ハ其版權ヲ失フヘシ

第貳拾六條 免許狀ヲ失フ者ハ其趣ヲ届出テタル上更ニ之ヲ與  
フ可シ

但シ手数料トシテ製本三部ノ定價ヲ納ムヘシ

第貳拾七條 小説歌謠ヲ出版スル者亦此條例ニ從フヘシ  
第貳拾八條 彫畫ノ類ハ出版スル毎ニ届出ルコト第壹條ニ依ル可  
シ

但シ版權ヲ與ヘス

△明治九年十一月十五日内務省甲第四拾貳號布達  
彫畫類是迄三部ツ、納本致來候處自今尋常彫畫錦畫等ニ限リ刻  
成之都度一部可相納此旨布達候事

△明治九年二月九日第拾貳號布告ヲ以テ在ノ貳條ヲ追加セラル  
第貳拾九條 版權免許狀附與ノ後版權賣買或ハ改題等届出ノ上  
雛形ノ通藏版人免許狀へ地方廳印ヲ請フ可シ

第三拾條 裏書餘白ナキニ至テハ更ニ免許狀書換願出ツヘシ  
但シ願出ル者ハ手数料トシテ製本三部ノ定價ヲ納ム可シ

△明治九年五月三十一日第八拾壹號布告ヲ以テ左ノ一條ヲ追加

ス

第三拾壹條 都合ニ因リ版權ヲ要セサル旨ヲ以テ免許狀返納ス  
ル者ハ其手数料トシテ金三拾錢ヲ納ム可シ  
但シ收納方ハ免許料ト同様タルヘシ

△明治九年十一月十日内務省甲第四拾壹號布達

版權免許料ノ儀ハ出版前ニ豫定シ相納候後免許狀返納願出候向  
ハ自今免許證下付ノ日ヨリ三十日以内ニ其旨願出候ヘハ免許料  
ハ返付シ手数料ヲ收納スヘシ若シ右日限過去リ免許證返納願出  
候トモ免許料ハ返付不致候條此旨布達候事

△明治十四年一月廿九日内務省甲第壹號布達

出版々權許可ノ圖書刻成前定價ヲ豫定シ免許料上納候向モ有之  
候處自今刻成ノ上々納可致此旨布達候事

但明治九年當省甲第四拾壹號布達ハ取消候事

出版條例罰則

第壹條 內務省へ届ケスシテ圖書ヲ出版シ及ヒ板權免許ヲ得スシテ免許ノ名ヲ冒ス者若クハ納本セス及ヒ免許料ヲ出サスシテ發賣スル者ハ其刻板印本及ヒ賣得金ヲ沒收ス

第貳條 凡ソ偽版ヲ作り或ハ書中ノ字句及ヒ繪圖ノ模様ヲ少變シ若クハ少加シテ其表題ヲ改メ其他總テ他人ノ版權ヲ侵シテ出版スル者ハ罰金貳拾圓以上三百圓以下ヲ科シ其刻板印本及ヒ賣得金ハ沒收シテ板主ニ給付ス

第三條 第壹條及ヒ第貳條ヲ犯スノ圖書タルコトヲ知テ之ヲ發賣スル者ハ罰金五圓以上百圓以下ヲ科ス其第貳條ヲ犯スノ圖書タルコトヲ知テ發賣スル者ハ現今ノ圖書及ヒ賣得金ヲ沒收シテ板主ニ給付ス

第四條 無名若クハ板主ノ住所ヲ記サ、ルノ圖書ヲ出版シ若ク

ハ發賣スル者並ニ變名偽名シ若クハ住所ヲ偽リテ圖書ヲ出版シ若クハ情ヲ知テ發賣スル者ハ禁獄十日以上六月以下ヲ科ス但シ沒收ノ法ハ第壹條ニ依ル

第五條 凡ソ著譯ノ圖書説謗律及ヒ新聞紙條例第拾貳條以下ヲ犯ス者ハ著譯者其罪ニ坐ス、

但シ著譯者ハ首ヲ以テ論シ出版者ハ從ヲ以テ論ス

第六條 猥褻俗ヲ亂ルノ圖書小説歌謠彫畫ノ類淫褻ニ係ル者ハ皆同シヲ著譯シテ出版スル者ハ禁獄三十日以上一年以下罰金三圓以上百圓以下ヲ科ス

第七條 法司圖書犯則ノ訴ヲ受レハ即時刻版及ヒ現存ノ印本ヲ勾収セシメ論決スルニ至テ官ニ沒ス  
活版ヲ用フル者ニシテ出版人自ラ印刷テ管スル者若クハ付スル所ノ印刷人犯情ヲ知ル者ハ印刷器ニ沒収ス

第八條 既ニ版權免許ヲ得ルト雖モ出版ノ上犯則ニ涉ル者ハ仍  
ホ本條ニ依リ罪ヲ科ス

○右改正

○明治十六年六月廿九日第貳拾壹號布告

出版條例

第壹條 圖書ヲ著作シ又ハ外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版セントス  
ル者ハ出版ノ日ヨリ到達日數ヲ除キ十日前ニ内務省ニ届出ツ  
ヘシ

但シ社則熟則引札ノ類印行シテ發賣セサル者ハ此例ニ在ラ  
ス

第貳拾八條 彫畫ノ類ヲ出版セントスル者ハ出版前ニ内務省ニ  
届出ツヘシ

但シ版摺ヲ與ヘス

罰則

第壹條 内務省ニ届ケスシテ圖書ヲ出版シ及版權免許ヲ得スシ  
テ免許ノ名ヲ冒ス者若クハ納本セス及ヒ免許料ヲ出サスシテ  
發賣スル者又ハ出版發賣ヲ禁止セラレタル圖書ヲ出版發賣シ  
タル者ハ其出版印本及ヒ賣得金ヲ没收ス

第五條 凡ソ著譯ノ圖書新聞紙條例第三拾壹條第三拾貳條第三  
拾三條第三拾四條第三拾七條第三拾八條第三拾九條ノ罪ヲ犯  
シタル者ハ著譯者出版者共犯ヲ以テ論シ該條例ニ依テ罰ヲ科  
ス

但シ印刷器ヲ沒收スルハ第七條第貳項ノ場合ニ限

第六條 罰則



第拾六章 新聞紙條例

○明治十六年四月十六日第拾壹號布告

第壹條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ其ノ發行所ノ管轄廳(東京府ハ警視廳)ヲ經由シテ内務卿ニ願出テ准許ヲ受ク可シ  
時々ニ刷行スル雜誌雜報ノ類ハ皆此條例ニ依ル

第貳條 新聞紙發行ノ願書ハ左ノ事項ヲ掲ケ持主若クハ社主ヨリ差出ス可シ

- 一 題號
- 二 記載ノ種目(政治法律農工商業等ノ類)
- 三 刷行ノ定期又ハ無定期(毎日毎週毎月又ハ無定期ニシテ逐號發行スル者)
- 四 發行所及印刷所
- 五 持主若クハ社主及編輯人印刷人ノ屬籍身分氏名年齢住所

第三條 社長幹事其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス新聞紙ニ署名スル者ハ總テ持主社主ノ例ニ依ル

第四條 新聞紙ノ題號記載ノ種目又ハ持主社主ヲ變更セントスルトキハ更ニ管轄廳(東京府ハ警視廳)ヲ經由シテ内務卿ニ願出テ准許ヲ受ク可シ  
前項ノ外第貳條ノ願書ニ掲ク可キ事項ニ於テ變更アルトキハ七日以内ニ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ届出ツ可シ

第五條 持主若クハ社主死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルトキハ假ニ持主社主ヲ定メテ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得但七日以内ニ管轄廳(東京府ハ警視廳)ヲ經由シテ内務卿ニ願出テ准許ヲ受ク可シ

第六條 編輯人印刷人ハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス

第七條 内國人ニシテ滿二十歳以上ノ男子ニ非サレハ持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ス  
公權ヲ剝奪セラレタル者ハ持主社主編輯人印刷人トナルコト

ヲ得ス公權ヲ停止セラレ及演說ヲ禁止セラレタル者其停止禁止間亦同シ

第八條 新聞紙ノ發行ヲ願出ツルトキハ保証トシテ左ノ金額ヲ納ム可シ但專ラ學術技術統計及官令又ハ物價報告ニ係ル者ハ此例ニ在ラス

- 一 東京ニ於テハ千圓
- 一 京都大阪橫濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓
- 一 其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓
- 一 一月三回以下發行スル者ハ各前項ノ半額

第九條 保証金ハ持主若クハ社主ヨリ爲替方又ハ銀行ノ預手形或ハ時價ニ準シタル公債証書ヲ以テ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ納ム可シ

新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ禁止セラレタルトキハ保証金ヲ還付ス

第十條 新聞紙發行ノ准許ヲ得タル日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサルトキハ其准許ノ効ヲ失フ者トス

刷行ノ定期ニ發行セサルトキハ七日以内ニ休業ノ旨ヲ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ届出ツ可シ休業届出ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ再ヒ發行セサル者亦前項ニ同シ

無定期ノ新聞紙前號刷行ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサル者亦同シ

第十條 新聞紙ハ每號ニ持主若クハ社主及編輯人印刷人ノ氏名并發行所ヲ記載スヘシ

第十條 發行所ノ外ニ於テ發賣スル者ハ其發賣所及發賣人ノ氏名住所ヲ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ届出ツ可シ

第十條 新聞紙ハ其刷行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳(東京府ハ警視廳)及本管始審裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ム可シ

第拾四條 新聞紙ニ記載シタル事項治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スル者ト認ムルトキハ内務卿ハ其發行ヲ禁止若クハ停止スルコトヲ得

第拾五條 各地方(東京府ヲ除ク)ニ於テ發行スル新聞紙前條ニ觸ル、者ト認ムルトキハ府知事縣令ハ其發行ヲ停止シ内務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ請フヘシ

第拾六條 新聞紙ノ發行ヲ禁止若クハ停止シタルトキハ内務卿ハ其新聞紙ヲ差押ヘ又ハ發賣ヲ禁シ其情重キ者ハ印刷器ヲ差押フルコトヲ得

府知事縣令ニ於テ停止ヲ命シタルトキハ其新聞紙ヲ差押ヘ及發賣ヲ禁スルコトヲ得ルモ内務卿ノ指揮ニ非サレハ印刷器ヲ差押フルコトヲ得ス

第拾七條 一人又ハ一社ニシテ數個ノ新聞紙ヲ發行スル者一個

ノ新聞紙ヲ停止セラレタルトキハ其停止中他ノ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得ス

第拾八條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ關スル犯罪ハ持主社主編輯人印刷人及筆者譯者ハ共犯ヲ以テ論ス

第拾九條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ關スル犯罪ハ其情狀ニ因リ裁判官ニ於テ犯罪ニ係ル新聞紙ヲ沒收スルコトヲ得其告訴發テ爲スニ際シ豫審判事檢察官警察官ハ裁判確定ニ至ル迄犯罪ニ係ル新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第貳拾條 裁判確定ノ日ヨリ七日以内ニ裁判費用及罰金ヲ納完セス又ハ損害ヲ賠償セサルトキハ保証金ヲ以テ之ニ充ツ可シ仍ホ足ラサルハ刑法第貳拾七條及第拾七條ニ依ル

保証金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ持主若クハ社主ハ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ通知ヲ得タル日ヨリ七日

以內ニ其欠額ヲ納完ス可シ若シ納完セサルトキハ其新聞紙發行准許ノ効ヲ失フ者トス

第貳拾壹條 准許ヲ得ヌ又ハ准許ノ効ヲ失ヒタル後私ニ新聞紙ヲ發行スル者ハ持主社主編輯人印刷人各六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加シ仍ホ其發行シタル新聞紙ヲ沒收ス其禁止停止ノ處分ヲ犯シ及第拾七條ニ違テ發行シタル者亦同シ

第貳拾貳條 詐偽ノ願書若クハ届書ヲ差出シタル者及第四條第壹項第五條ニ違フ者ハ持主若クハ社主一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ附加ス編輯人印刷人情ヲ知ル者亦同ク處斷ス  
前項ノ場合ニ於テ内務卿ハ其新聞紙ノ發行ヲ禁止若クハ停止スルコトヲ得

第貳拾三條 第四條第貳項及第拾條第貳項第拾壹條第拾貳條第拾三條ニ違フ者ハ持主若クハ社主拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス其第拾壹條ニ違フ者ハ編輯人印刷人亦同ク處斷ス

第貳拾四條 禁止セラレタル新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人ハ禁止ノ日ヨリ二年間持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ヌ犯ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

停止セラレタル新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人ハ停止間他ノ新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ヌ犯ス者ハ罰前項ニ同シ

第貳拾五條 沒收若クハ差押ノ處分ヲ受ケ又ハ發賣ヲ禁止セラレタル後其新聞紙ヲ發賣又ハ頒布シタル者ハ發賣若頒布者受賣者ヲ問ハス各拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第貳拾六條 新聞紙ニ記載シタル事項ハ其原稿ヲ刷行ノ日ヨリ三週間保存シ官署ノ訊問ニ備フ可シ違フ者ハ編輯人拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第貳拾七條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付官署ヨリ其出所ノ訊問ヲ受ケタルキハ之ヲ證明ス可シ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ

第貳拾八條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付裁判ヲ受ケタルキハ其新聞紙ニ於テ直ニ宣告ノ全文ヲ掲載ス可シ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ

第貳拾九條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付關係アル者ヨリ正誤ヲ求メタルキハ其求ヲ得タルヨリ次回又ハ第三回ノ刷行ニ於テ別ニ一欄ヲ設ケ正誤ノ文ヲ掲載シ又ハ正誤ス可シ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ但其正誤ノ趣意法律ニ觸ル者及

之ヲ求メタル者ノ氏名詳ナラサルキハ此限ニ在ラス

第三拾條 他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其新聞紙ニ正誤ヲ載セタルキハ關係アル者ノ求ナシト雖モ其新聞紙ヲ得タルヨリ次回又ハ第三回ノ刷行ニ於テ正誤スヘキコト總テ前條ノ例ニ依ル

第三拾壹條 式ニ依リ宣布セサル公文及上書建白請願書ハ當該官司ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三拾圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三拾貳條 官省院ノ議事及府縣會ノ傍聽ヲ禁シタル議事ハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ罰前條ニ同シ

第三拾三條 重罪輕罪ノ豫審ハ公判ニ付セサル以前ニ之ヲ記載

スルコトヲ得ス裁判官審判ノ議事及傍聴ヲ禁シタル訴訟ノ辨論ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ罰前條ニ同シ

第三拾四條 陸軍卿海軍卿ハ特ニ命令ヲ下シテ軍隊軍艦ノ進退及一般ノ軍事ヲ記載スルコトヲ禁スルコトヲ得其禁ヲ犯ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ三拾圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情重キ者ハ印刷器ヲ沒收ス

外務卿ハ外交上ノ事件ニ付特ニ命令ヲ下シテ記載ヲ禁スルコトヲ得其禁ヲ犯ス者ハ罰前項ニ同シ

第三拾五條 新聞紙ヲ以テ人ヲ教唆シ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法ノ例ニ依ル其教唆ニ止マル者ハ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減ス

第三拾六條 刑法第二編第壹章ノ刑ニ觸ル、者ハ印刷器ヲ沒收ス

第三拾七條 政體ヲ變壞シ刺憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタル者ハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ百圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其第三拾五條ニ觸ル、者ハ重ニ從テ處斷ス

本條ヲ犯ス者ハ其印刷器ヲ沒收ス

第三拾八條 成法ヲ誹毀シテ國民法ニ違フノ議ヲ亂ル者及顯ハニ刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論ヲ爲ス者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三拾九條 猥褻ノ文辭圖畫及誹謗ヲ寓シタル戲畫ヲ掲載スルコトヲ得ス犯ス者ハ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四拾條 第貳拾九條ノ場合ニ於テ被害者ノ私事ニ係ル者ハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四拾壹條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重

數罪俱獲ノ例ヲ用ヒス

第四拾貳條 外國ノ新聞紙及書籍ヲ譯出シ新聞紙ニ記載スル者亦此條例ニ依ル

第拾七章 集會條例

○明治十三年四月五日第拾貳號布告

第壹條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ公衆ヲ集ムル者ハ開會三日前ニ講談論議ノ事項講談論議スル人ノ姓名住所會同ノ場所年月日ヲ詳記シ其會主又ハ會長幹事等ヨリ管轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ

第貳條 (明治十五年六月三日第貳拾七號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス) 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ結社(何等ノ名義ヲ以テスルモ其實政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ結合スル者ヲ併稱ス)スル者ハ結社前其社名社則會場及ヒ社員名簿ヲ管轄警察官ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ其社則ヲ改正シ及ヒ社員ノ出入アリタルトキモ同様タル可シ此届出ヲ爲スニ當リ警察署ヨリ尋問スルコトアレハ社中ノ事ハ何事タリヒ之

ニ答辨スヘシ

前項ノ結社及其他ノ結社ニ於テ政治ニ關スル事項ヲ講談論議  
スル爲メコ集會ヲ爲サントスルルハ尙ホ第壹條ノ手續ヲ爲ス  
可シ

第三條 講談論議ノ事項講談論議スル人員會場及ヒ會日ノ規定  
アル者ハ其定規ヲ初會ノ三日前ニ警察署ニ届出認可ヲ受クル  
ルハ爾後ノ例會ハ届出ニ及ハスト雖モ之ヲ變更スルルハ第壹  
條ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 (明治十五年六月三日第貳拾七號布告ヲ以テ左ノ如ク  
改正ス) 管轄警察官ハ第壹條第貳條第三條ノ届出ニ於テ治安  
ニ妨害アリト認ムルルハ之ヲ認可セズ又ハ認可スルノ後ト雖  
モ之ヲ取消スコアルヘシ

第五條 警察署ヨリハ正服ヲ着シタル警察官ヲ會場ニ派遣シ其

認可ノ証ヲ檢査シ會場ヲ監視セシムルコアル可シ

△明治十五年六月三日第貳拾七號布告ヲ以テ左ノ壹項ヲ追加  
ス(警察官會場ニ入ルルルハ其求ムル所ノ席ヲ供シ且其尋問ア  
ルルハ結社集會ニ關スル事ハ何事タリモ之ニ答辨ス可シ

第六條 派出ノ警察官ハ認可ノ証ヲ明示セサルル講談論議ノ届  
書ニ掲ケサル事項ニ亘ルルル又ハ人ヲ罪戾ニ教唆誘導スルノ意  
ヲ含ミ又ハ公衆ノ安寧ニ妨害ナリト認ムルル及ヒ集會ニ臨ム  
ヲ得サル者ニ退去ヲ命シテ之ニ從ハサルルハ全會ヲ解散セシ  
ム可シ

△明治十五年六月三日第貳拾七號布告ヲ以テ左ノ壹項ヲ追加  
ス(前項ノ場合ニ於テ解散ヲ命シタルル地方長官(東京ハ警視  
長官)ハ其情狀ニ依リ演說者ニ對シ一ケ年以内管轄内ニ於テ  
公然政治ヲ講談論議スルヲ禁止シ其結社ニ係ルモノハ仍ホ之



ヲ解社セシムルヲ得内務卿ハ其情狀ニ依リ更ニ其演說者ニ對シ一ケ年以内全國内ニ於テ公然政治ヲ講談論議スルヲ禁止スルヲ得

第七條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル集會ニ陸海軍人常備豫備後備ノ名籍ニ在ル者警察官官立公立私立學校ノ教員生徒農業工藝ノ見習生ハ之ニ臨會シ又ハ其社ニ加入スルヲ得ス

第八條 (明治十五年六月三日第貳拾七號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス) 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ其旨趣ヲ廣告シ又ハ委員若クハ文書ヲ發シテ公衆ヲ誘導シ又ハ支社ヲ置キ若クハ他ノ社ト連絡通信スルコトヲ得ス

第九條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ屋外ニ於テ公衆ノ集會ヲ催スヲ得ス

第十條 第十條ノ認可ヲ受ケスシテ集會ヲ催スモノ會主ハ貳圓

以上貳拾圓以下ノ罰金若クハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其會席ヲ貸シタル者並ニ會長幹事及ヒ其講談論議者ハ各二圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ第三條ノ規程ヲ犯シタル者モ亦本條ニ依ル

第十壹條 (明治十五年六月三日第廿七號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス) 第十條第十條ノ規程ニ背キテ届出ヲ爲サス又ハ尋問スル所ノ事項ヲ開答セサルハ社長ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ詐僞ノ届出ヲ爲シ或ハ尋問ヲ得テ偽答スルハ社長ハ右罰金ノ外尙ホ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十貳條 (明治十五年六月三日第廿七號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス) 第五條ノ規程ニ背キ派出警察署ノ臨席ヲ肯セス又ハ其求ムル所ノ席ヲ供セサルトキ會主會長及社長幹事ハ各五圓以上五拾圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處

シ警察官ノ尋問ニ答ヘヌ又ハ偽答スルハ同罪ニ處ス再犯ニ當ル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第拾三條 派出所ノ警察官ヨリ解散ヲ命シタル後尙ホ退散セサル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金若クハ十一日以上六月以下ノ禁獄ニ處ス

第拾四條 第七條ノ制限ヲ犯シタルキ會主會長及ヒ社長幹事ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金若クハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其他情狀ノ重キモノアレハ其社ヲ解散セシム其制限ヲ犯シテ入社シ又ハ臨會スル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第拾五條 第八條ノ制限ヲ犯シタルキ會主會長及ヒ社長幹事ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ禁獄ニ

處シ其社ヲ退散セシム此事ニ關スル者モ亦同罪ニ處シ脅迫スル者及ヒ罪再犯ニ當ル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處シ其社長幹事ハ一年以上五年以下結社又ハ入社ヲ禁ス

第拾六條 (明治十五年六月三日第貳拾七號布告ヲ以テ左ノ如ク改正シ更ニ第拾七第拾八拾九ノ三ヶ條ヲ追加シ而シテ本條ノ警成文ヲ以テ之レヲ第拾九條ニ置ク)

學術會其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラヌ多衆集會スル者警察官ニ於テ治安ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルキハ之ニ監視スルヲ得若シ其監視ヲ肯セサルキハ第拾貳條ニ依テ處分ス  
學術會ニシテ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スルヲアルキ第拾條ニ依テ處分ス

第拾七條 前條ノ場合ニ於テ治安ヲ妨害スト認ムルキハ第六條ニ依テ處分ス

第拾八條 凡ソ結社若クハ集會スル者内務卿ニ於テ治安ニ妨害アリト認ムルキハ之ヲ禁止スルヲ得若シ禁止ノ命ニ從ハス又ハ仍ホ秘密ニ結社若クハ集會スル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第拾九條 成法ニ制定スル所ノ集會ハ此限ニ在ラス

第拾八章 寫真條例

○明治九年六月十七日第九拾號布告

第壹條 凡ソ人物山水其他ノ諸物象ヲ寫シテ專賣ヲ願出ル者ハ五年間專賣ノ權ヲ與フヘシ之レヲ寫真板權ト稱ス

但之ヲ願ハサル者ハ別段届出ルニ及ハス

第貳條 板權ヲ得タル寫真ニハ必ス每葉寫主ノ標號及ヒ定價並ニ板權免許ノ年月ヲ記載ス可シ

第三條 板權ヲ得タル者ハ寫真壹版ニ付キ三葉ヲ納メ仍ホ免許料トシテ一版ニ付キ十二葉ノ定價ヲ納ム可シ之レヲ納メサル前ニ發賣スルヲ許サス

第四條 出板條例第七條第拾三條第拾壹條ノ第貳項第貳拾貳條第貳拾三條第貳拾四條及ヒ第貳拾六條ハ寫真板權ニ適用ス可シ

但シ出版條例第貳拾六條但書ノ手数料ハ一版ニ付キ六葉ノ定價ヲ納ム可シ凡ソ願屆書等ノ手續モ總テ出版條例ニ依ル可シ

第五條 凡ソ圖書ヲ寫眞スル者ハ翻刻出版ノ例ニ倣ヒ都テ出版條例ニ依ル可シ

第六條 第三條ヲ犯シ若クハ情ヲ知テ轉賣スル者ハ其現在ノ寫眞ヲ沒収シ壹圓ヨリ少ナカラス拾圓ヨリ多カラサルノ罰金ヲ科シ仍ホ版權ヲ追奪スヘシ

第七條 他人ノ版權ヲ侵シ寫眞ヲ覆寫シ又ハ免許ノ名ヲ冒認シ及ヒ之レヲ發賣シ若クハ情ヲ知テ轉賣スル者ハ現存ノ寫眞ヲ沒収シ壹圓ヨリ少ナカラス貳拾圓ヨリ多カラサルノ罰金ヲ科シ仍ホ原主ノ損害ヲ償ハシム  
但シ原主ヨリ訴出ルニアラサレハ受理セズ

第拾九章 褒賞條例

○明治十四年十二月七日第六拾三號布告

第壹條 凡ソ自己ノ危難ヲ顧ミス人名ヲ救助セシ者又ハ德行卓絶ナル者(孝子順孫節婦義僕ノ類)又ハ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者(疏河築隄修路墾田ノ業或ハ貧院學校設立ノ類)云フ)ヲ表彰スル爲メ左ノ三種ノ褒章ヲ定ム

紅綬褒章 右自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助セシ者ニ賜フモノトス

綠綬褒章 右德行卓絶ナル者ニ賜フモノトス

藍綬褒章 右公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者ニ賜フモノトス

第貳條 奇特ノ實行アリト雖モ褒章ヲ賜フヘキ場合ニ至ラサルモノハ褒狀ヲ與フコアルヘシ

褒賞條例